

もくじ

もくじ	1
はじめに	6
DynaBook でやりたいことを探そう！	10

1章 本体の機能 15

1 各部の名前	16
① 前面図	16
② 背面図	18
③ 裏面図	19
2 システムインジケータ	21
3 モードパネルと各ボタン	22
① モードパネル	22
② ワンタッチボタン	24
③ オーディオ／アプリケーションボタン	24
④ 東芝コントロールで設定する	26
4 キーボード	32
① キーボード図	32
② キーシフトインジケータの切り替え	34
③ キーを使った便利な機能	35
5 タッチパッド	39
① タッチパッドを設定するには	39
② タッピング機能	40
③ その他の設定	44
④ タッチパッドを無効／有効にするには	45
6 ディスプレイ	47
① ディスプレイの設定	47
7 ハードディスクドライブ	53
① ハードディスクドライブに関する表示	53
8 サウンド機能	54
① スピーカの音量を調整する	54
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	55
9 ドライブ	57
① CD／DVD について	57
② DVD-RAM を使うときは	62

10	SDメモ리카ード	67
	① SDメモ리카ードについて	67
	② SDメモ리카ードのセットと取り出し	68
	③ SDメモ리카ードを使う前に	69
11	リモコン	71
	① リモコンについて	71
	② 電池の取り付け／取りはずし	72
	③ リモコンの各部名称	74
12	セキュリティロック	76

2章 音楽と映像

77

1	音楽CDを聴く	78
	① Windowsを起動して音楽CDを聴く	78
	② Windowsを起動しないで音楽CDを聴く	81
2	音楽ファイルを聴く	83
	① 音楽再生用アプリケーションを起動する	83
	② Windows Media Playerでファイルを再生する	84
3	オリジナル音楽CDを作る	87
	① Drag'n Drop CDを使うために	87
	② Drag'n Drop CDを使う	89
4	オリジナルMDを作る	92
5	DVD-Videoを観る	93
	① InterVideo WinDVDを起動する	94
	② InterVideo WinDVDを使う	96
6	デジタルカメラの写真を編集／整理する	100
	① デジカメ Walkerを使う	100
7	映像を編集する	103
	① 映像編集の流れ	103
	② アプリケーションをインストールする	103
	③ 映像を編集する	104
	④ 編集した映像を書き込む	106

3章 通信機能

113

1 LANへ接続する	114
① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	114
② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	116
③ ネットワーク設定／デバイスを切り替える	126
2 Bluetooth機能を使う	129
① Bluetoothとは	129
② Bluetooth機能を使って通信する	131
③ Bluetooth通信を切断する	138
④ Bluetooth東芝ユーティリティを終了する	139
3 新着メールをモードパネルで確認する	140
① 新着メールチェックの設定をする	140
② 新着メールを確認する	147
③ 新着メールチェックを停止する	147
4 内蔵モデムについて	149
① 海外でインターネットに接続する	149

4章 周辺機器の接続

153

1 周辺機器について	154
① 周辺機器を使う前に	155
2 マルチスタイルベイ機器を差し替える	156
① マルチスタイルベイ機器について	156
② マルチスタイルベイ機器の差し替え	156
3 フロッピーディスクドライブを接続する	159
① フロッピーディスクドライブ	160
② フロッピーディスク	161
③ フロッピーディスクを使う前に	162
4 PCカードを接続する	166
① PCカードを使う前に	166
② PCカードを使う	167
5 USB対応機器を接続する	169
6 テレビを接続する	171

7	CRTディスプレイを接続する	176
8	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	177
9	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する	179
10	その他の機器を接続する	182
	① マイクロホン	182
	② ヘッドホン	183
	③ オーディオ機器	184
11	メモリを増設する	186

5章 バッテリ駆動

191

1	バッテリーについて	192
	① バッテリ充電量を確認する	193
	② バッテリを充電する	195
	③ バッテリパックを交換する	198
2	省電力の設定をする	200
	① 東芝省電力ユーティリティ	200
3	パソコンの使用を中断する／電源を切る	206
	① スタンバイ	206
	② 休止状態	208
	③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	209

6章 アプリケーションについて

211

1	アプリケーションを使う前に	212
2	アプリケーションを追加（インストール）する	214
3	アプリケーションを削除（アンインストール）する	215

7章 システム環境の変更

217

1	システム環境の変更とは	218
2	東芝HWセットアップを使う	219
	① 東芝HWセットアップの起動と使用	219

1 本製品の仕様	226
2 各インターフェースの仕様	235
3 技術基準適合について	239
4 無線 LAN について	251
5 Bluetooth について	258
さくいん	264

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っておくと役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 サイバーサポートへの参照の場合 … 〈 〉 サイバーサポートにはさまざまな情報が搭載されており、自然語で検索できます。

- * 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

サイバーサポート

CyberSupport for TOSHIBA を示します。

ドライブ DVD マルチドライブを示します。

 詳細について「1 章 9 ドライブ」

記載について

- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Office ロゴ、Outlook、Bookshelf は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。『新英和中辞典』第6版 (c) 研究社 1967,1994,1998、『新和英中辞典』第4版 (c) 研究社 1993, 1995,1998、『新明解国語辞典』第5版 (c) 三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの商標です。
- ・ CyberSupport は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、CyberSupport にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、The 翻訳、The 翻訳インターネットは (株) 東芝の商標または登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。
- ・ Drag ' n Drop CD はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は Symantec Corporation の登録商標です。
Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
(c) 2002 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ 携快電話は、ソースネクスト株式会社の登録商標です。
- ・ 時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版は、時事通信社の商標です。
- ・ MotionDV STUDIO は、松下電器産業株式会社の登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ @nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ 東京電話インターネットは東京通信ネットワーク株式会社の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。



ドルビー商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ず読んでください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・無線LANの使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 参照▶ 詳細について『まずはこれから ユーザ登録をする』

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

DynaBookでやりたいことを探そう!



探しかた

- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ XXXXX
↳ アプリケーション名 ↳ 参照ページまたは参照マニュアル名



通信を楽しむ

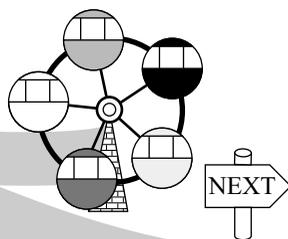
- ・ プロバイダと契約したい
「簡単インターネット」 ⇒ 『まずはこれから』
- ・ ホームページを見たい
「Internet Explorer」 ⇒ 『基本をマスター 2章』
- ・ ホームページを英語／日本語に翻訳したい
「インターネット翻訳 英日」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ 海外でインターネットに接続したい
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」 ⇒ P.149
- ・ LANの設定を切り替えて使いたい
「ネットワークデバイススイッチ」 ⇒ P.126
- ・ Bluetooth機能を使いたい
「Bluetooth東芝ユーティリティ」 ⇒ P.129



メールを使う

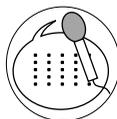
- ・ メールとスケジュールをまとめて管理したい
「Microsoft Outlook」 ⇒ 《サイバーサポート》
- ・ メールをしたい
「Outlook Express」「Microsoft Outlook」 ⇒ 『基本をマスター 3章』
- ・ 自動メールチェックしたい
「メール着信ユーティリティ」 ⇒ P.140





音楽を楽しむ

- 音楽CDやファイル、ムービーを再生したい
「Windows Media Player」⇒P.78
- オリジナル音楽CDを作りたい
「Drag'n Drop CD」⇒P.87



音声

- パソコンを音声で操作したい
パソコンに文章を読み上げさせたい
「LaLaVoice」⇒《サイバーサポート》



画像/映像を楽しむ

- デジタルカメラの写真を取り込んで編集したい
「デジカメWalker (Ulead iPhoto Express)」⇒P.100
- 映像を取り込んで編集し、DVDを作りたい
「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」⇒P.103
- DVDを楽しみたい
「InterVideo WinDVD」⇒P.93



文書/表を作る

- ・案内状や報告書を作りたい
「Microsoft Word」⇒《サイバーサポート》
- ・表やグラフを作りたい
「Microsoft Excel」⇒《サイバーサポート》



便利なソフト

- ・PDFファイルを見たい
「Acrobat Reader」⇒《サイバーサポート》
- ・地図で場所を調べたい
「プロアトラスW for TOSHIBA」⇒《サイバーサポート》
- ・電車の経路や時刻表、運賃を調べたい
「駅すばあと」⇒《サイバーサポート》
- ・年賀状や暑中見舞いを作りたい
「筆ぐるめ」⇒《サイバーサポート》
- ・国語/英和/和英辞典を使いたい
「Microsoft Bookshelf Basic」⇒《サイバーサポート》
- ・医学辞典を使いたい
「時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版」⇒《サイバーサポート》
- ・携帯電話を快適に使いたい
「携快電話6in」「Outlook plus！」⇒《サイバーサポート》





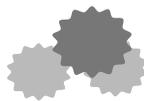
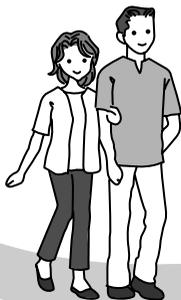
パソコンを守る

- ・ウイルスのチェックや駆除をしたい
「Norton Internet Security 2002」⇒『困ったときは 2章』
- ・CD/DVDにバックアップを取りたい
「Drag'n Drop CD」⇒『困ったときは 2章』



パソコンの設定

- ・パソコンの状態をチェックしたい
パソコンの基本情報を知りたい
「東芝PC 診断ツール」⇒『困ったときは1章』
- ・ハードウェアの設定を変えたい
「東芝 HW セットアップ」⇒P.219
- ・ワンタッチボタンの設定を変えたい
「東芝コントロール」⇒P.26
- ・キー操作でアプリケーションを起動したい
「Fn-esse」⇒《サイバーサポート》
- ・バッテリー駆動のときの省電力設定をしたい
「東芝省電力ユーティリティ」⇒P.200



1 章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

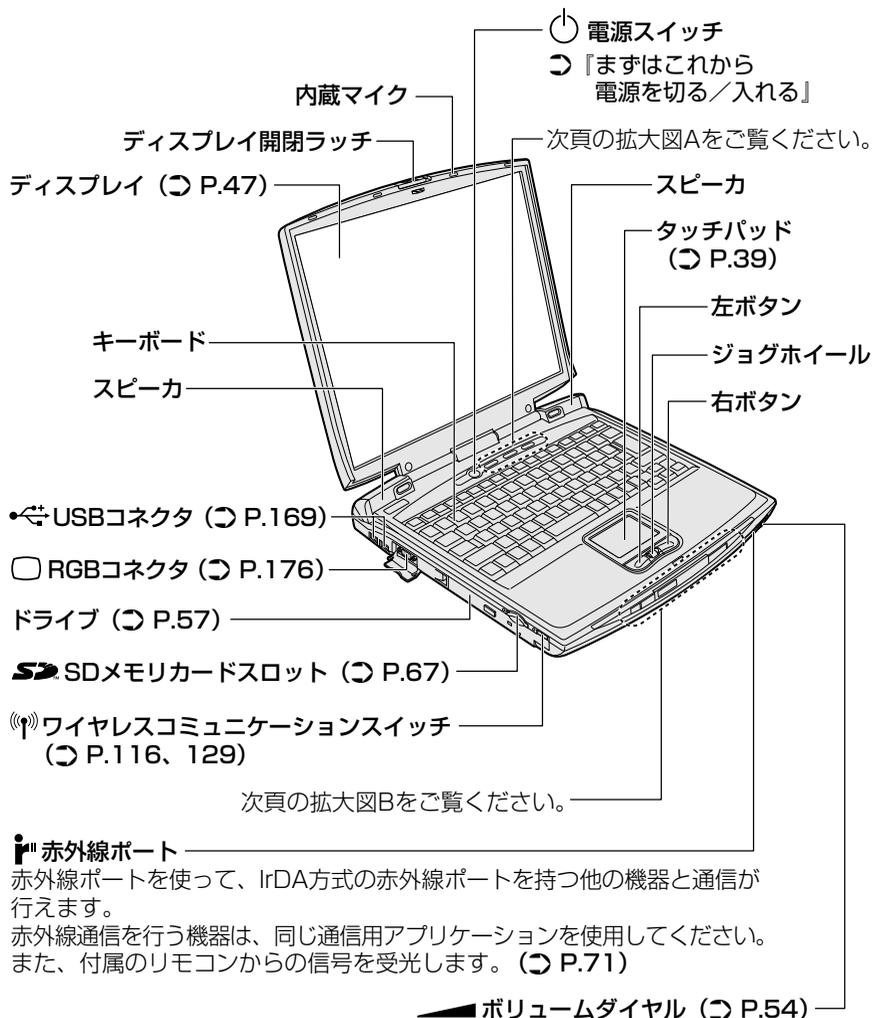
1	各部の名前	16
2	システムインジケータ	21
3	モードパネルと各ボタン	22
4	キーボード	32
5	タッチパッド	39
6	ディスプレイ	47
7	ハードディスクドライブ	53
8	サウンド機能	54
9	ドライブ	57
10	SDメモ리카ード	67
11	リモコン	71
12	セキュリティロック	76

1 各部の名前

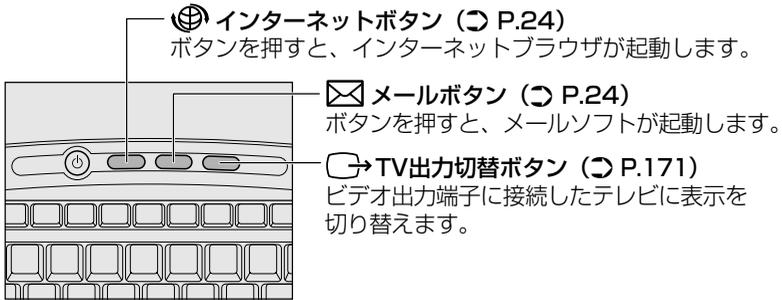
ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照先を確認してください。

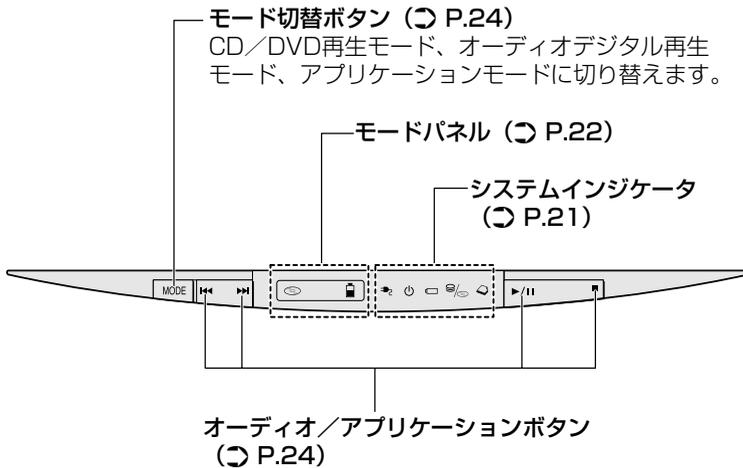
1 前面図



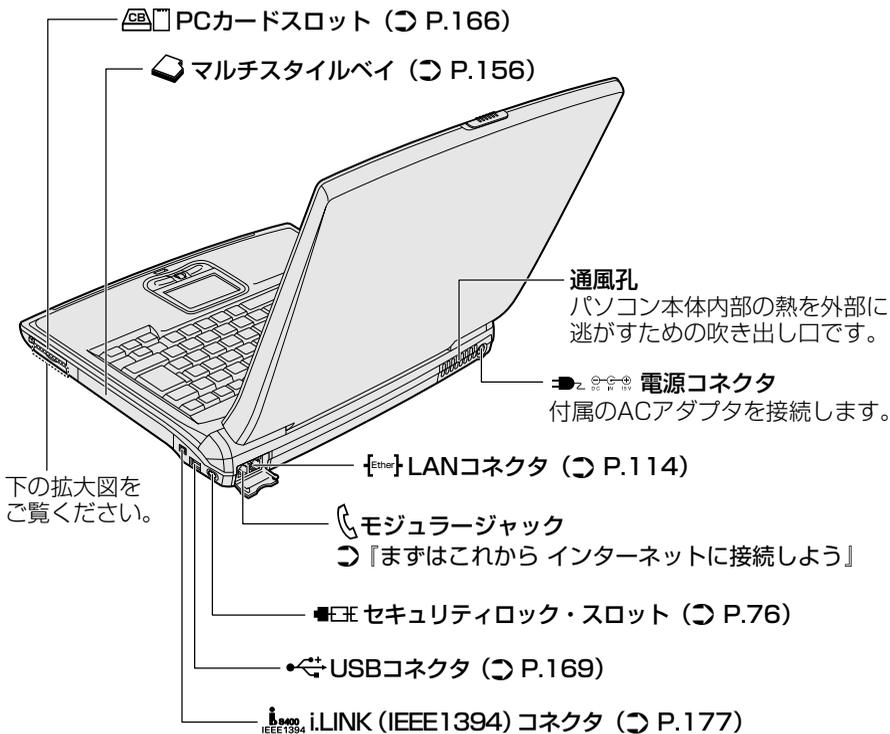
【拡大図 A】



【拡大図 B】

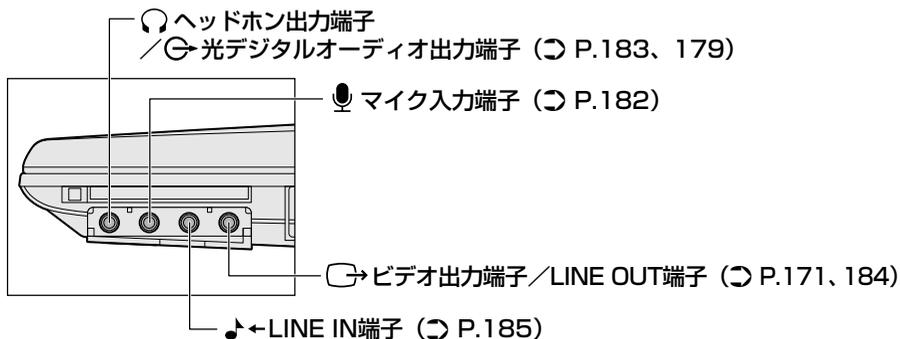


2 背面図

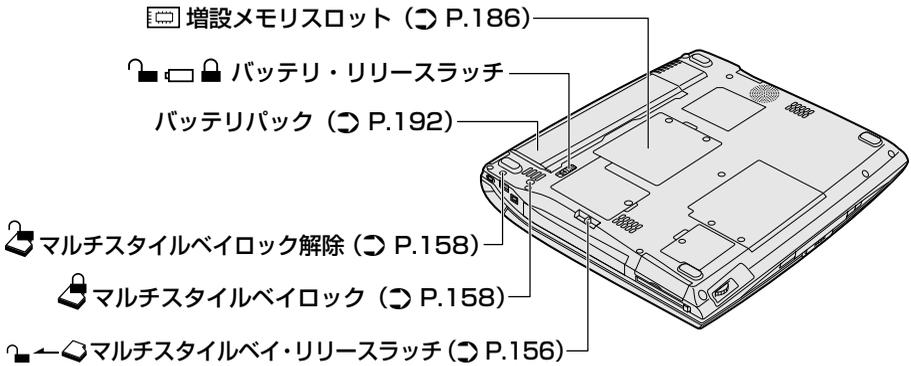


【拡大図】

コネクタカバーを開くと、次のコネクタがあります。



3 裏面図



⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため） / 強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く） / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

【仕様について】

電源コードの仕様

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は次のとおりです。

アメリカ合衆国	： 125V
カナダ	： 125V
日本	： 100V

日本では必ず AC100V のコンセントで使用してください。

* 取得規格は、アメリカ合衆国：UL 規格、カナダ：CSA、日本：電気用品安全法です。

AC アダプタの仕様

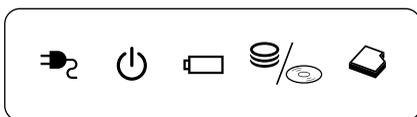
本製品に同梱されている AC アダプタは、海外でも使用できます。

AC アダプタの仕様は次のとおりです。

入力	： AC100V～240V、1.2A～0.6A、50/60Hz
出力	： 15V、5A

2 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続  『まずはこれから』
	Power LED	電源の状態  『まずはこれから』
	Battery LED	バッテリーの状態  P.193
	HDD/CD-ROM LED	内蔵のハードディスクドライブまたはドライブにアクセスしている  P.53、61
	マルチスタイルベイ LED	マルチスタイルベイに取り付けられている機器にアクセスしている  『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』

3 モードパネルと各ボタン

モードパネルの表示と、ワンタッチボタンやオーディオ／アプリケーションボタンについて説明します。

1 モードパネル

モードパネルは、パソコンの状態をアイコンで表示したり、時計、新着メール数などを文字列で表示したりできます。



1 モードパネルの点灯

モードパネルは、次のときに、青色に点灯します。

- 電源スイッチを押したとき
- モード切替ボタン、オーディオ／アプリケーションボタンを操作したとき

パソコン本体の電源が入っているときは、常に点灯する設定もできます。

▶ 詳細について 「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2 モードパネルに表示されるアイコン

モードパネルに表示されるアイコンの表示状況によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。

次のアイコンはパソコン本体の動作状況を表しています。

	CD/DVD 再生アイコン	CD/DVD 再生モード ▶ 参照 P.25、80、81、94
	オーディオデジタル再生アイコン	オーディオデジタル再生モード ▶ 参照 P.25、83
	アプリケーション起動アイコン	アプリケーションモード ▶ 参照 P.25
	オーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン	オーディオ／アプリケーションボタンがロックされている ▶ 参照 P.25
	バッテリー残量アイコン	バッテリーの状態 ▶ 参照 P.193

3 モードパネルに表示される文字列

モードパネルには、半角のカタカナと英数字の文字列が表示できます。表示される内容は次のとおりです。

モードパネルの表示	内容
時計	パソコンが次の状態のときに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
新着メール数	パソコンが次の状態のときに新着メール数が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っていて、メールアプリケーションを起動していないとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき
登録した文字列	アプリケーションを起動していないときに表示される文字列です。 パソコンが次の状態のときに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・電源が入っているとき ・スタンバイ機能を実行しているとき ・休止状態のとき ・電源が切れているとき 「東芝コントロール」であらかじめ半角 32 文字以内のカタカナと英数字の文字列を登録できます。
メッセージ	システムのメッセージやアプリケーションのメッセージが表示されます。例えば、電源を入れたときに、「Welcome」と表示されます。パソコンの電源が入っているときに表示されます。

 文字列の登録について「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

2) ワンタッチボタン

本製品には、ワンタッチボタンがあります。

TV出力切替ボタンは、ビデオ出力端子に接続したテレビに表示を切り替えることができます。

▶ 参照 ▶ テレビへの表示について 「4章 6 テレビを接続する」

次の2つの各ボタンを押すと設定されているアプリケーションが起動します。

起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。購入時に各ボタンに設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン Internet Explorer
- メールボタン Microsoft Outlook

【パソコン本体の電源が入っていないとき】

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。

【スタンバイ状態／休止状態のとき】

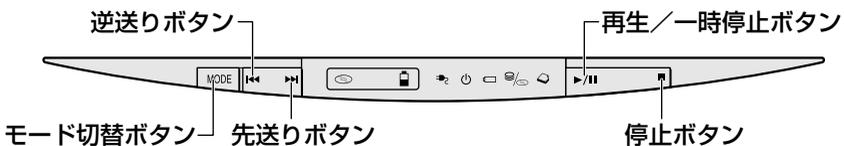
スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

▶ 参照 ▶ アプリケーションの設定について
「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

3) オーディオ／アプリケーションボタン

モード切替ボタンで、CD/DVD再生モード ()、オーディオデジタル再生モード ()、アプリケーションモード () にしているときに、オーディオ／アプリケーションボタンで操作できます。

ただし、オーディオ／アプリケーションボタンで操作するアプリケーションとモードの状態（モードパネルのアイコン表示）が対応していないと操作できません。



モード切替ボタンを押すごとに、モードが切り替わります。

モードの状態は、モードパネルにアイコンで表示されます。

- CD / DVD 再生モード ()

CD / DVD を再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 1 音楽 CD を聴く」「2章 5 DVD-Video を観る」

- オーディオデジタル再生モード ()

音楽ファイルを再生できます。

参照▶ 詳細について「2章 2 音楽ファイルを聴く」

- アプリケーションモード ()

登録したアプリケーションを起動できます。

参照▶ 詳細について「本節 ④ 東芝コントロールで設定する」

各モード時に、オーディオ／アプリケーションボタンはそれぞれ次の機能を持っています。

ボタン	CD/DVD 再生モード ()	オーディオデジタル再生モード ()	アプリケーションモード ()
	逆送りボタン		アプリケーションボタン 1
	先送りボタン		アプリケーションボタン 2
	再生／一時停止ボタン		アプリケーションボタン 3
	停止ボタン		アプリケーションボタン 4

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能

本製品を持ち運ぶ場合、誤ってオーディオ／アプリケーションボタンが押されると、アプリケーションが起動してしまう可能性があります。

そこで、オーディオ／アプリケーションボタンを一時的に機能しないようにする「オーディオ／アプリケーションボタンロック機能」があります。

なお、オーディオ／アプリケーションボタンロック機能はパソコンの電源が切れている場合のみ使用できます。

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能を有効にするには、次のように操作します。

1 モード切替ボタンを4秒以上押す

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能を解除する場合も、同様にモード切替ボタンを4秒以上押してください。

また、電源スイッチを押してパソコンの電源を入れると、オーディオ／アプリケーションボタンロック機能は解除されます。

オーディオ／アプリケーションボタンロック機能の使用中は、モードパネルにオーディオ／アプリケーションボタンロック機能アイコン（）が表示されます。

4 東芝コントロールで設定する

「東芝コントロール」でモードパネルやボタンの設定ができます。設定できる内容は、次のとおりです。

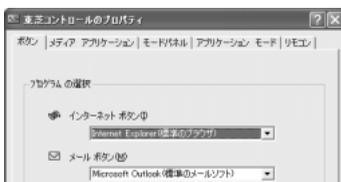
- アプリケーションが起動されていないときに、モードパネルに表示される文字列
- 新着メールチェック機能を使用するときのモードパネルの表示
- インターネットボタン、メールボタンを使用して起動するアプリケーションの変更
- モード切替ボタンを使用して起動するアプリケーションやドライブの設定
- 同梱のリモコンでの操作の有効／無効

1 起動方法

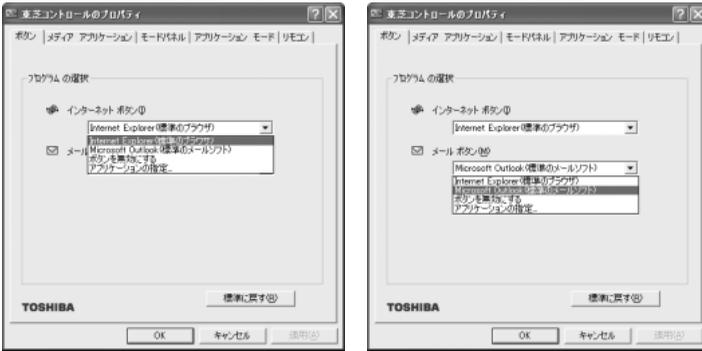
- 1 [コントロールパネル] を開き、 プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする

2 [ボタン]タブ

インターネットボタン、メールボタンを押したときに起動するアプリケーションを変更できます。



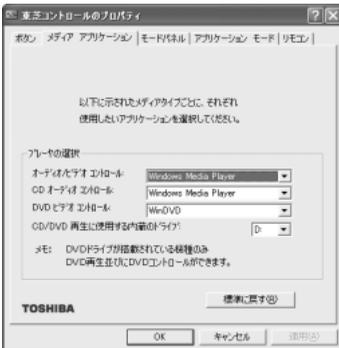
1 変更するボタン名の下の変換ボタンをクリックする アプリケーションの一覧が表示されます。



2 アプリケーションを選択して、[OK] ボタンをクリックする

3 [メディアアプリケーション] タブ

モード切替ボタンで、CD / DVD 再生モード (🎵)、オーディオデジタル再生モード (🎶) を選択したときに起動するアプリケーションで設定します。



DVD マルチドライブ (別売り) をマルチスタイルベイに取り付けると、CD / DVD 再生に使用するドライブを選択することができます。

詳しくは『DVD マルチドライブに付属の説明書』を確認してください。

なお、この機能は市販の外付型ドライブはサポートしておりません。

4 [モードパネル]タブ

モードパネルの表示を設定できます。



1 [表示モード] で、モードパネルに表示したい内容を選択する

次の設定を選択できます。[オーナストリング表示] を選択する場合は、登録したい文字列を入力してください。

時計表示 (24H)	時計を表示します (24 時間)。
時計表示 (12H)	時計を表示しません (12 時間、AM / PM)。
オーナストリング表示	登録した文字列を表示します。 表示できる文字列は半角のみ、32 文字以内のカタカナおよび英数字です。

2 [OK] ボタンをクリックする

時計表示とオーナストリング表示では、オーナストリング表示が優先されません。

[バックライトを常時点灯する] をチェックすると、パソコン本体の電源が入っているときはモードパネルのバックライトが常に点灯します。

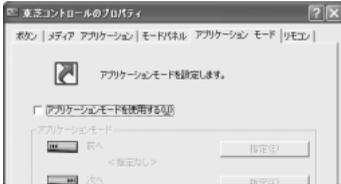
[新着メール情報を表示する] をチェックすると、新着メールチェックを行い、新着メールがある場合はモードパネルに新着メール数が表示されます。

[新着メール情報を表示する] をチェックして [設定] ボタンをクリックすると、[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。

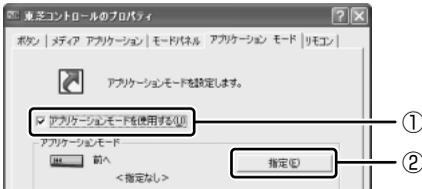
5 [アプリケーションモード]タブ

モード切替ボタンでアプリケーションモード（)を使用するかどうかを設定します。また、アプリケーションモード（)時に起動するアプリケーションを設定できます。

ここでは、アプリケーションボタン1に「ペイント」を設定する例で変更方法を説明します。



- 1 [アプリケーションモードを使用する] をチェックし①、[アプリケーションモード] で設定を行うアプリケーションボタンの [指定] ボタンをクリックする②



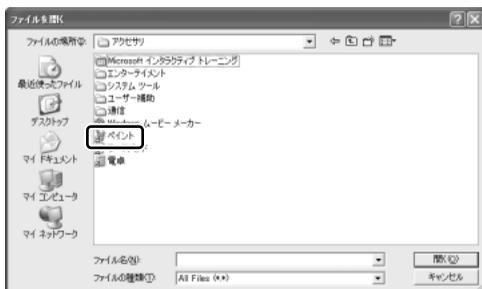
[指定] 画面が表示されます。

- 2 [参照] ボタンをクリックする
[ファイルを開く] 画面が表示されます。
- 3 [アクセサリ] をダブルクリックする



[アクセサリ] フォルダの内容が表示されます。

4 [ペイント] をダブルクリックする

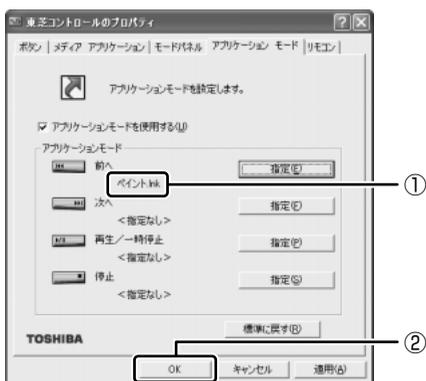


[指定] 画面に戻ります。

5 [アプリケーション名] にペイントが設定されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[東芝コントロールのプロパティ] 画面に戻ります。

6 設定したアプリケーションボタンの下に「ペイント.lnk」と表示されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



アプリケーションボタンにペイントが設定されます。

購入時の設定に戻す場合は、[東芝コントロールのプロパティ] 画面で [標準に戻す] ボタンをクリックしてください。

6 [リモコン]タブ

本製品に同梱のリモコンでの操作を無効／有効にすることができます。



- 1 無効にするときは [リモコンを使用する] のチェックをはずし、有効にするときはチェックをする
- 2 [OK] ボタンをクリックする

参照 → リモコンについて「本章 11 リモコン」

参照 → 東芝コントロールの問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

Caps Lock
(キャプスロック)LED
文字入力の大文字ロック状態を示す

Esc(エスケープ)キー
操作を取り消すときに使う

半/全<漢字>キー

Tab(タブ)キー

Caps Lock
(キャプスロック)英数キー

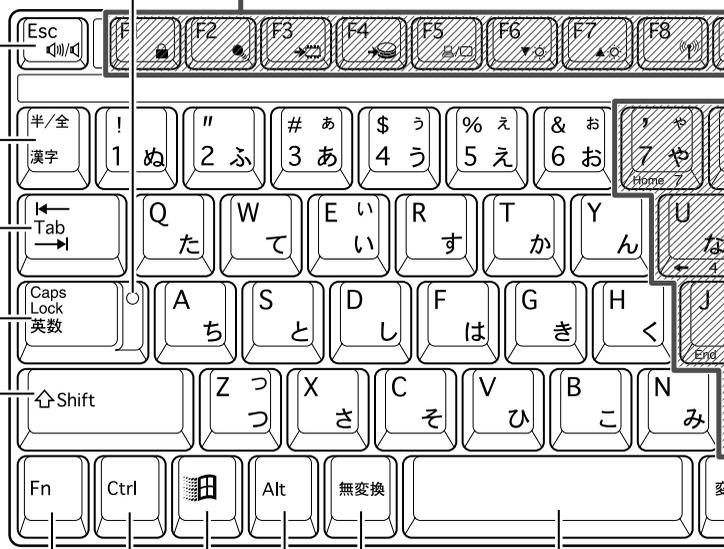
Shift(シフト)キー
アルファベットの大文字、
小文字入力の一時的な切り
替えや記号などを入力する
ときに使う

Fn(エフエヌ)キー
オーバーレイキーを使用するときや
ファンクションキーとの組み合わせに
より、特殊機能を実行するときを使う

Ctrl(コントロール)キー
他のキーと組み合わせて、特定の
操作を実行するときを使う

Win(ウィンドウズ)キー
Windowsのスタートメニューを表示する
ときや他のキーと組み合わせて、ショート
カットとして使う

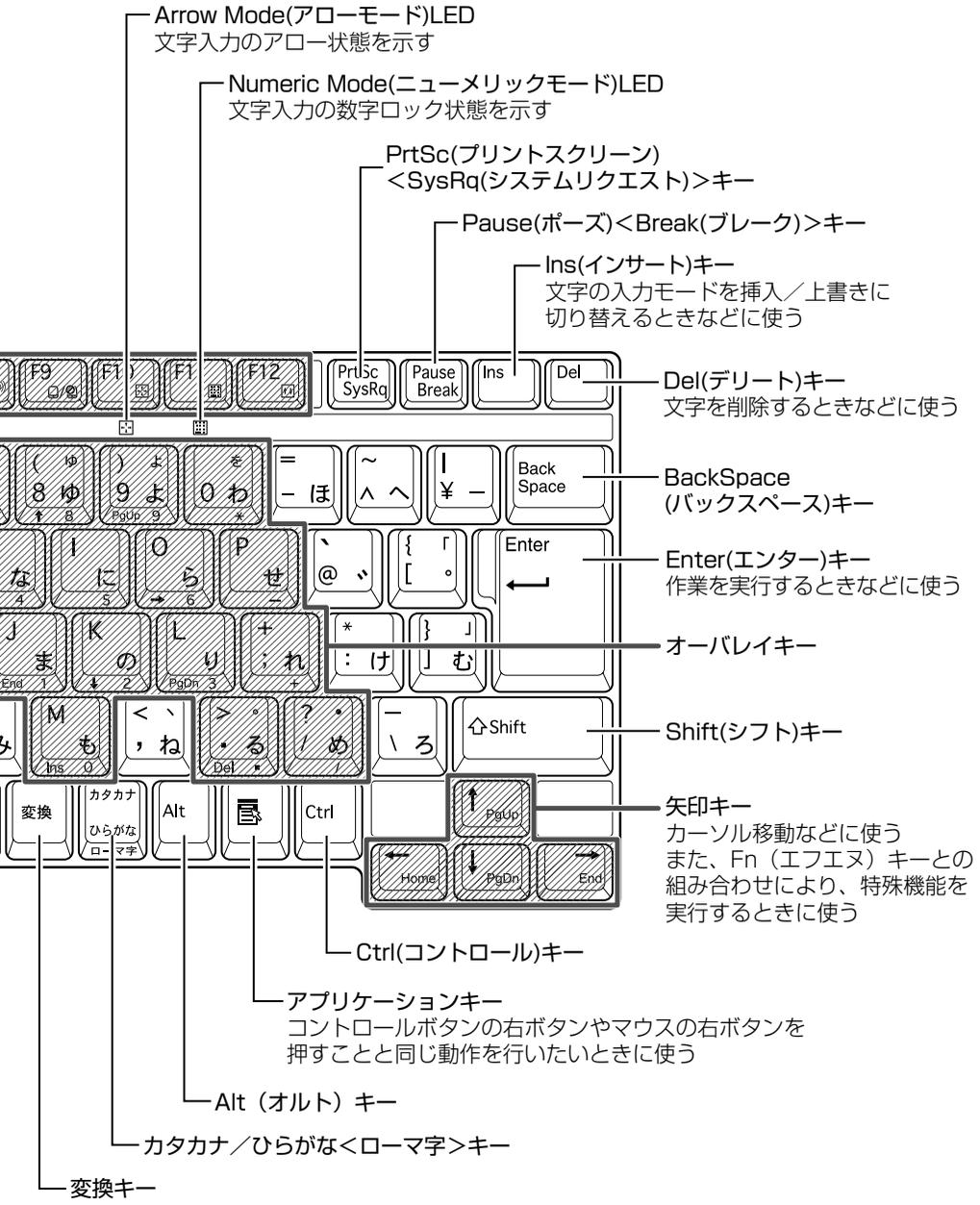
ファンクションキー
特定の操作を実行する
ときなどに使う



無変換キー

Alt(オルト)キー
他のキーと組み合わせて、
特定の操作を実行するとき
に使う

Space(スペース)キー
空白文字を入力するときや、
入力した文字をかな漢字変換
するときを使う



2 キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。

各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LED が点灯します。その場合、他の2つは解除して消灯してください。

【キーシフトインジケータ】

LED	切り替えキー	文字入力の状態
Caps Lock LED	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態 文字キーで英字の大文字が入力できます。
Arrow Mode LED	(Fn) + (F10)	アロー状態 オーバーレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。
Numeric Mode LED	(Fn) + (F11)	数字ロック状態 オーバーレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう1度押します。

3 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fn】キーを使った特殊機能キー

キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろ画面に戻る]をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	スタンバイ機能が実行されます。 参照▶ 詳細について「5章 3-① スタンバイ」
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	休止状態が実行されます。 参照▶ 詳細について「5章 3-② 休止状態」
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照▶ 詳細について「4章 6 テレビを接続する」

キー	内容
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。
(Fn)+(F8) 〈無線通信機能の切り替え〉	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドしている場合、(Fn)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに使用する無線通信機能を切り替えます。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 参照 ▶ 詳細について 「本章 5-4 タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。 アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。 数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては機能が異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。

キー	内容
Fn + ↑ 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ↑ キーを押すと、前のページに移動できます。
Fn + ↓ 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ↓ キーを押すと、次のページに移動できます。
Fn + ← 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ← キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn + → 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 → キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

【**Fn**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
Fn + R	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
Fn + M	すべてをアイコン化する
Shift + Fn + M	すべてのアイコン化を元に戻す
Fn + F1	『ヘルプとサポート』を起動する
Fn + E	[マイコンピュータ] 画面を表示する
Fn + F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl + Fn + F	他のコンピュータを検索する
Fn + Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
Fn + Break	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	Ctrl + Alt + Del	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PrtSc	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Alt + PrtSc	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

5 タッチパッド

タッチパッドを、使いやすく設定できます。

1) タッチパッドを設定するには

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ] で行います。

1 [マウスのプロパティ] の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ マウス] をクリックする
[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



- 3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする
各機能の設定については、本節の以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

1 タッピングの方法

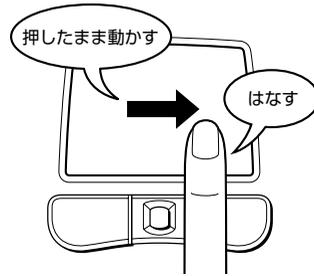
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



2 タッピング機能を設定する

タッピングのいろいろな設定は、[タッチ] タブでできます。[タッチ] タブで設定できる機能は、次のようになっています。



タップ	<p>目的に合わせて項目をチェックする（<input checked="" type="checkbox"/>）と、タッピング機能を使用できます。</p> <p>[タップでクリック] を選ぶと、タッピングでクリックとダブルクリックができます。[タップでドラッグ] を選ぶと、タッピングでドラッグすることができます。</p> <p>[ドラッグロック] を選ぶと、タッピングでドラッグしたときに、指を離してもドラッグ状態を保つことができます。</p>
タッチ感度	タッチパッドが反応する感度をスライダーバーで調節できます。
パームチェック	キーボードから文字を入力しているときにあやまってタッチパッドに触れてしまい、意図しない場所にポインタが移動したりクリックしてしまうことを防ぎます。
このデバイスを無効にする	選択したデバイスを無効にします。

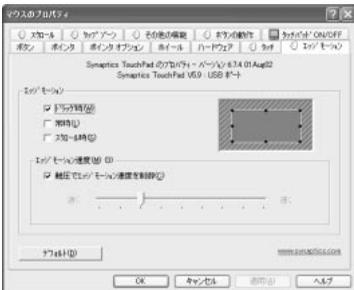
参照 → 『基本をマスター 1章 1-① タッチパッド』

3 エッジモーション機能を使う

[エッジモーション] タブで設定します。

エッジモーション機能を設定すると、ポインタを動かしている途中で指がタッチパッドの端にきてしまったとき、タッチパッドから指を離すまで同じ方向にポインタを動かし続けることができます。

目的に合わせて項目をチェック（）してください。



ドラッグ時	ドラッグしているときにエッジモーション機能を使用できます。
常時	常にエッジモーション機能を使用できます。
スクロール時	スクロール時にエッジモーション機能を使用できます。
触圧でエッジモーション速度を制御	<p>チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、タッチパッドを押す指の強さに反応して、エッジモーション機能でポインタが動き続ける速度が速くなります。</p> <p>速度を一定に設定したい場合はチェックをはずし、スライダーバーで速度を調節してください。</p>

4 スクロール機能を使う

[スクロール] タブで設定します。

タッチパッドの右端、下端に合わせて上下または左右に動かしたとき、スクロール機能を使用できます。



選択したアイテムをスクロール	選択した画面やスクロールバーをスクロールできます。
ポインタで示したアイテムをスクロール	ポインタで示した画面やスクロールバーをスクロールできます。
惰性を利用	チェックする (<input checked="" type="checkbox"/>) と、スクロール中にタッチパッドから指を離しても、スクロールし続けることができます。スクロールを止めるには、指をタッチパッドの上に置いてください。
練習	クリックすると、タッチパッドの練習ができます。
スクロール速度	スクロールする速度をスライダバーで調節できます。

5 タップゾーン機能を使う

[タップゾーン] タブで設定します。

タッチパッドの右上、右下、左上、左下をタッピングしたときの動作を設定できます。



[タップゾーン機能を使用する] をチェックする () と、タップゾーン機能が使用できます。[コーナータップ時の動作を選択] の、右上、右下、左上、左下のメニュー欄で ボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい機能を選択してください。

3 その他の設定

[マウスのプロパティ] ではタッピングだけではなく、ボタンなどの設定もできます。

1 ポインタや通知領域の設定を変更する

[その他の機能] タブで設定します。



ウィンドウの境界線で停止

ポインタがアクティブウィンドウの内側だけで動くように設定できます。一度指を離すと、ウィンドウの外側へ移動できます。

スローモーションキー

指定したキーを押しながらポインタを動かすと、ポインタの速度が遅くなるように設定できます。

ポインタ制約キー

ポインタを水平方向または垂直方向にのみ動くように設定できます。

トレイアイコン

通知領域に表示するアイコンに、タッチパッド上の指の動きを表示するかどうかを選択できます。

ポインタリフレッシュ速度

ポインタの動作の滑らかさを設定できます。

Selective Suspend

チェックすると、タッチパッドを一定時間使用しないとき自動的に省電力モードに移行します。

2 ボタンの設定を変更する

[ボタンの動作] タブで設定します。

タッチパッドの右ボタン、左ボタン、ジョグホイールを押したときの動作を変更できます。



ボタンの動作を選択

[右ボタン]、[中央ボタンの動作]、[左ボタン] のボタンをクリックして、表示される一覧から設定したい動作を選択します。

役立つ 操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



4 タッチパッドを無効／有効にするには

市販のマウスを接続し、パソコンの操作をマウスで行う場合などタッチパッドを使わないときは、タッチパッド機能を無効にすることができます。[タッチパッド ON/OFF] タブで、タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。



【タッチパッドのON/OFF】

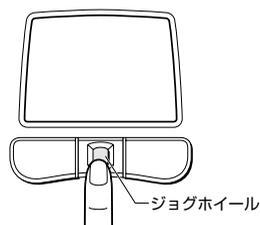
[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。

タッチパッドの有効/無効は、(Fn)+(F9)キーでも切り替えることができます。

役立つ 操作集

オートスクロール

ジョグホイールを押すと、ポインタが  や  に変わります。スクロールしたい方向にポインタを少し動かすと、ポインタの形がスクロールしたい方向の矢印に変わり、自動的に画面がスクロールされます。もう1度ジョグホイールを押すと、通常の状態に戻ります。アプリケーションによっては対応していない場合もあります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

6 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1600 × 1200 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 → CRT ディスプレイの接続について
「4 章 7 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1920 × 1440 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

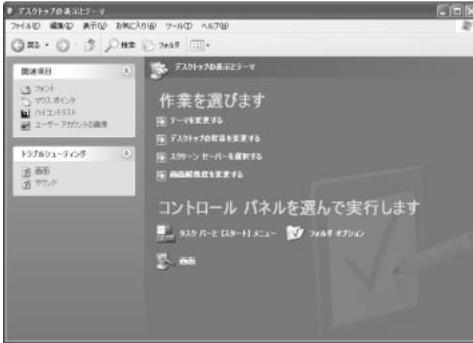
1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 デスクトップ表示を変える

デスクトップのデザインやスクリーンセーバなどを、[コントロールパネル] の [デスクトップの表示とテーマ] 画面で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする

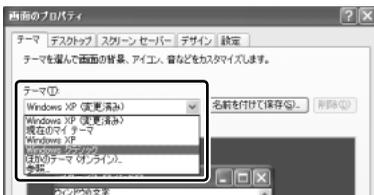
[デスクトップの表示とテーマ] 画面が表示されます。



デスクトップのテーマを変える

テーマを選んで画面の背景、アイコン、音などを変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [テーマを変更する] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [テーマ] タブの [テーマ] で  ボタンをクリックし、目的のテーマを選択する



画面は、[Windows クラシック] を選択する場合の表示例です。

- 3 [OK] ボタンをクリックする

壁紙を変える

デスクトップの壁紙（背景）を、Windows に用意されているイラストや模様に変更することができます。ファイルの場所を指定すると、好きなイラストに変更できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【デスクトップの背景を変更する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 【デスクトップ】タブの【背景】で、目的の画像を選択する



パソコンの画面の中にプレビューが表示されます。

画面は「草原」を選択する場合の表示例です。

- 指定できる画像ファイル

bmp、gif、jpeg、html ファイルなどが使用できます。

- 画像の位置を指定する

画像ファイルの種類によっては、デスクトップに対して、画像の表示位置を指定できます。

【表示位置】で【中央に表示】、【並べて表示】、【拡大して表示】から選択します。

3 【OK】ボタンをクリックする

スクリーンセーバを使う

好みのスクリーンセーバを選択し、スクリーンセーバを表示させるまでの時間を設定できます。

1 【デスクトップの表示とテーマ】画面で【スクリーンセーバーを選択する】をクリックする

【画面のプロパティ】画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブの [スクリーンセーバー] で ▼ ボタンをクリックし、目的のスクリーンセーバを選択する



画面は [Windows XP] を選択する場合の表示例です。

スクリーンセーバによっては、パソコンの絵の中にプレビューが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックすると、画面全体にスクリーンセーバのプレビューが表示されます。プレビューを中止したい場合は、タッチパッドを操作してください。

- [待ち時間] の時間 (分単位) を設定する
例えば、[5] に設定すると、パソコンの電源を入れた状態で5分間、タッチパッドを操作せず、キーボードから入力を行わなかったとき、スクリーンセーバが表示されます。
- [パスワードによる保護]
チェックすると、スクリーンセーバ解除時にパスワードの入力画面を表示します。

3 [OK] ボタンをクリックする

動作中のスクリーンセーバを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドの操作を行ってください。

[パスワードによる保護] をチェックしている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。

Windows のログインパスワードを入力してください。

解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上的アイコン、テキスト、その他の項目が大きき、または小さく表示されます。

1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [画面解像度を変更する] をクリックする

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



3 [OK] ボタンをクリックする

ウィンドウの色を変える

ウィンドウ、アクティブタイトルバー、メッセージボックスの配色を変更できます。

- 1 [デスクトップの表示とテーマ] 画面で [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [デザイン] タブの [配色] で、  ボタンをクリックし、配色を選択する



プレビューが表示されます。
画面は、[シルバー] を選択する場合の表示例です。

3 [OK] ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

7 ハードディスクドライブ

内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。マルチスタイルベイに 60GB ハードディスクユニット（別売り）を取り付けたり、PC カードタイプ（TYPE II）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

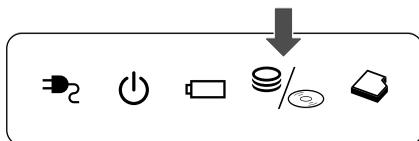
▶ 参照 60GB ハードディスクユニットについて
『60GB ハードディスクユニットに付属の説明書』

お願い 操作にあたって

- HDD/CD-ROM  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクや CD / DVD などに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD / DVD などに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカ、磁気プレスレットなど強い磁気を発するものの近くで使用しないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

1) ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、HDD/CD-ROM  LED が点灯します。



60GB ハードディスクユニット、PC カードタイプや i.LINK (IEEE1394) 対応機器などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、HDD/CD-ROM  LED は点灯しません。

ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

8 サウンド機能

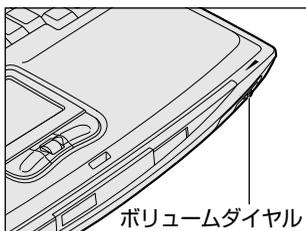
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1 スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。



お願い

- 使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起すことがあります。
- ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで音が増幅し、発生する高く大きな音のことです。
- ハウリングを起こした場合は音量を調整してください。

2 マスタ音量で調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする [マスタ音量] 画面が表示されます。

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするるとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。



【音楽／音声を再生するとき】

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調整できます。

マスタ音量	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD オーディオ	音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
[マスタ音量] 画面が表示されます。
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする

6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする

[マイク] : マイクから録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

同時に2つのデバイスを選択することはできません。

録音したい音楽/音声が「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

2 光デジタルオーディオ出力端子経由で録音するとき

光デジタルオーディオ出力端子経由で録音する場合は、あらかじめボリュームダイヤル、または「マスタ音量」の [WAVE] など、各ソース用のコントロールで再生している音量を調節しておきます。

メモ

- 音量を最小にしたり、ミュート(消音)にすると、光データは出力されません。
- ボリュームダイヤルでは、本体のスピーカからの音量のみを調節できます。
- デジタル出力が「オフ」に設定されていると、光データは出力されません。
[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで「デジタル出力」が「オフ」になっていないことを確認してください。

 参照 → マスタ音量について「本節 ① スピーカの音量を調整する」

9 ドライブ

本製品には、DVD マルチドライブが1台内蔵されています。DVD マルチドライブはDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、CD-RW、CD-Rの読み込み／書き込み機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。

CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

- DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD再生」モードに設定してください。
- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。

1 CD／DVDについて

CD、DVDについて説明します。

1 使用できるCD

読み込みできるCDは、次の種類です。

- 音楽用CD
8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録されています。
- CD-ROM
使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのもので使用できます。
- CDエクストラ
記録領域を音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

書き込みできる CD は次の種類です。

- CD-R

書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。

CD-R の書き込み速度は最大 16 倍速です。16 倍速で書き込むためには 16 倍速の書き込みに対応した CD-R メディアを使用してください。

- CD-RW

CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。マルチスピード CD-RW メディアの場合、4 倍速が使用できます。High-Speed 対応メディアを使用した場合は最大 8 倍速です。なお、Ultra Speed CD-RW 対応メディアは使用できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

：三菱化学 (株)、(株) リコー

CD-R : 太陽誘電 (株)、三井化学 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)

これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
 - CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
 - 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
 - DVD マルチドライブは、構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み込み／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。
-

2 使用できるDVD

読み込みできる DVD は、次の種類です。

- DVD-ROM ●DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています）
- DVD-R ●DVD-RW ●DVD-RAM

書き込みできる DVD は次の種類です。

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAM
DVD-RAM は、DVD-RAM Ver2.0 / 2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

DVD-RAM に書き込むにはドライバのインストールが必要です。



ドライバのインストール

「本節 ②-1 ドライブとフォーマットユーティリティのインストール」

【DVD-RAMの種類】

DVD-RAM にはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できる DVD-RAM は次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み込み／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カードリッジなし*	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）	○

* 一部の家庭用 DVD ビデオレコーダでは再生できない場合があります。

お願い DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rに書き込む際には、次のメーカーのDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用することを推奨します。

DVD-RAM : 松下電器産業 (株)

DVD-RW : 日本ビクター (株)、TDK (株)

DVD-R : 松下電器産業 (株)、太陽誘電 (株)

これらのメーカー以外のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RWに書き込んだデータの一部を削除することはできません。書き込まれたデータの変更は、まずすべてのデータを消去し、改めて必要なデータだけを再書き込みする必要があります。
- DVD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、必ずしもメディアに記載された容量分のデータを書き込むことはできません。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- DVDマルチドライブは、構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み込み／書き込みができなくなる場合があります。DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rにデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

メモ

- 市販のDVD-RW、DVD-Rには業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。読み込んだ画像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 使用できるメディアと対応するアプリケーション

本製品のドライブで使用できるメディアと、本製品に付属のアプリケーションで書き込みできるメディアと Video フォーマットは次のとおりです。

○：使用できる ×：使用できない -：対応していない

メディア	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD-RAM	DVD+R	DVD+RW
読み込み	○	○	○	○	○	×	×
書き込み回数	1回	繰り返し 書換可能*1	1回	繰り返し 書換可能*1	繰り返し 書換可能*1	×	×
Drag'n Drop CD *2	○	○	○	○	×	-	-
DVDfunSTUDIO *2	-	-	○	○	×	-	-
DVD-MovieAlbum *2	-	-	×	×	○	×	×
DVD-Video *3	-	-	○	○	×	-	-
DVD VR (VideoRecorder) *3	-	-	×	×	○	-	-

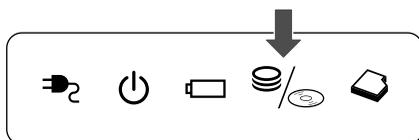
* 1：実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

* 2：付属のアプリケーションです。

* 3：Video フォーマットです。

5 ドライブに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、ドライブが動作しているときは、HDD/CD-ROM LED が点灯します。



2 DVD-RAM を使うときは

1 ドライバとフォーマットユーティリティのインストール

「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると、次のことが行えるようになります。

- UDF2.0形式でフォーマットされたDVD-RAMの読み込みと書き込み
- UDF2.0 / UDF1.5形式でのDVD-RAMのフォーマット
- DVD-RAMのライトプロテクトの設定／解除

初めてDVD-RAMに書き込みをするとき、または初めてDVD-RAMをフォーマットするとき、必ずインストールしてください。

1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

参照 → CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVD-RAM Driver Software」をインストールする

インストールの途中で「ReadmeXP - メモ帳」画面が表示されます。DVD-RAMドライバの制限事項が記載されていますので内容を確認してください。

3 「閉じる」ボタンをクリックする

4 「InstallShield Wizardの完了」画面で「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」が選択されていることを確認し、「完了」ボタンをクリックする

再起動し、「RAMASST」画面が表示されます。

5 「はい」ボタンをクリックする



2 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

 「本項 PDF マニュアルの起動方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

購入時に選択できるファイルシステムは「FAT32」のみです。「DVD-RAM Driver Software」をインストールすると「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」が選択できるようになります。

【UDF2.0】

ビデオレコーディング規格に対応したファイルシステムです。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP / 2000*¹がインストールされたパソコン*²でもデータを読み込むことができます。

家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

*1 Windows 2000... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating System 日本語版

*2 DVD-RAMドライブが搭載されていないパソコンでDVD-RAMを読み込むためには、DVD-RAMの読み込みに対応したDVDドライブが搭載されている必要があります。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み込み／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP / Me *1 / 98 *2 がインストールされたパソコン *3 でもデータを読み込むことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- *1 Windows Me Microsoft® Windows® Millennium Edition operating System 日本語版
- *2 Windows 98 Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating System 日本語版
- *3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み込むためには、DVD-RAM の読み込みに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

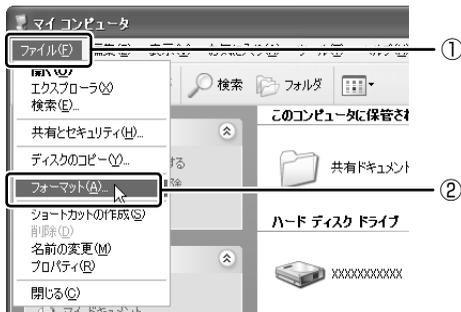
メモ

本製品に付属している「DVD-MovieAlbum」で映像データを書き込む際には「UDF2.0」の DVD-RAM を使用します。

3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。「DVD-RAM Driver Software」をインストールしてから次の操作を行ってください。

- 1 ドライブにフォーマットする DVD-RAM をセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ DVD-RAM ドライブ (D:)] をクリックする
[DVD-RAM ドライブ (D:)] が選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②
アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[フォーマット DVD-RAM (D:)] 画面が表示されます。

5 【ドライブ】と【フォーマット種別】を選択する

映像を書き込み、家庭用DVDビデオレコーダで再生するためのDVD-RAMを作成する場合は、[ユニバーサル ディスク フォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

6 【開始】 ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするDVD-RAMの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、【はい】 ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAMを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[フォーマットDVD-RAM (D:)] 画面で[閉じる] ボタン () をクリックしてください。

パソコンで作成したファイルなどの文書データをDVD-RAMにバックアップをとる場合は、[マイコンピュータ] で目的のファイルやフォルダをDVD マルチドライブにコピーしてください。映像データを書き込み、DVD-Videoを作成する場合は、使用するアプリケーションによって操作が異なります。

 **参照** ファイルやフォルダのコピー
『基本をマスター 1章 5-② ファイルやフォルダをコピーする』

 **参照** 映像データの書き込み「2章 7-④ 編集した映像を書き込む」

PDF マニュアルの起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [DVD-RAM] → [DVD-RAM ドライバー] → [DVD-RAM ディスクの使い方] をクリックする

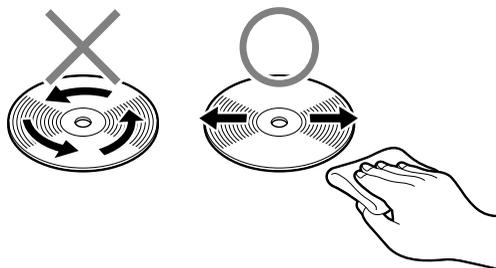
「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



10 SD メモリカード

SD メモリカードを SD メモリカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

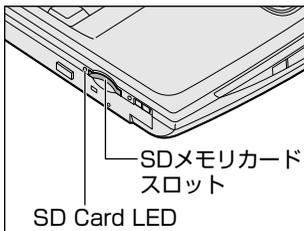
本製品の SD メモリカードスロットでは、マルチメディアカードと SDIO カードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがってすべての SD メモリカードの動作は保証できません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

1 SD メモリカードスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。



2) SD メモリカードのセットと取り出し

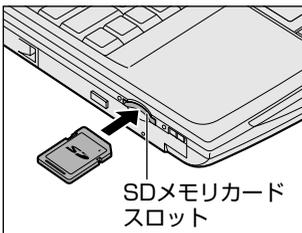
SD メモリカードを SD メモリカードスロットに挿入することを「SD メモリカードをセットする」といいます。

⚠ 注意

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

- 1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

- 1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive- ドライブ (E:)] を安全に取り外します (標準値) をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

- 2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモ리카ードの内容を見る

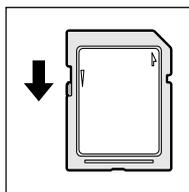
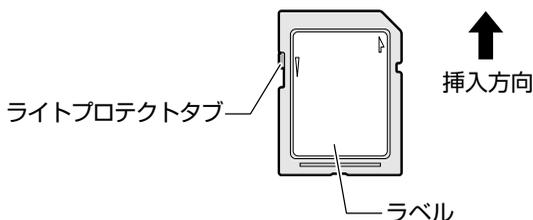
著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
[マイコンピュータ] 画面が表示されます。
- 2 [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする
[リムーバブルディスク (E:)] (標準値) 画面が開き、セットしたSDメモ리카ードの内容が表示されます。

3 SDメモ리카ードを使う前に

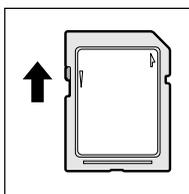
1 ライトプロテクトタブ

SDメモ리카ードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSDメモ리카ードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、SDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）でフォーマットを行ってください。

フォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⚠ 注意

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。

お願い

再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

SDメモ리카ードの取り扱い

SDメモ리카ードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモ리카ードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SDメモ리카ードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモ리카ードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモ리카ードに付属のケースに入れてください。
- SDメモ리카ードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

11 リモコン

本製品には、リモコンが同梱されています。リモコンを使って、離れた場所からパソコンの機能の一部を操作することができます。

1) リモコンについて

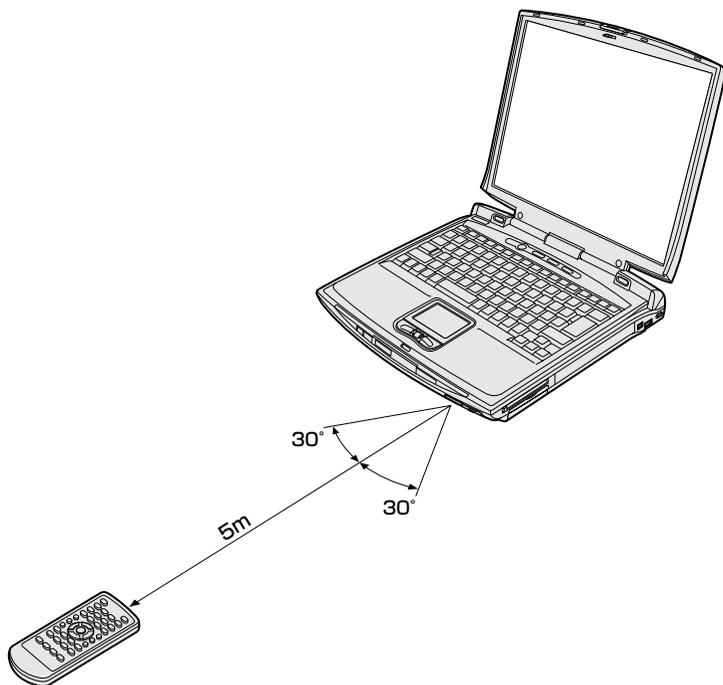
お願い 操作にあたって

- リモコンは本製品専用です。
- マルチスタイルベイ機器のなかには、リモコン操作に対応していないものもあります。

【使用範囲】

パソコン本体に向けてリモコンの操作ボタンを押します。使用範囲は、次の距離と角度を目安にしてください。

距離	赤外線受光窓正面より約 5m 以内
角度	赤外線受光窓正面より左右約 30 度以内



【使用時の注意】

使用範囲内でも、次のような場合はリモコンが誤動作したり操作できない場合があります。

- パソコン本体とリモコンの間に障害物があるとき
- 赤外線受光窓に直射日光や蛍光灯の強い光があたっているとき
- 赤外線受光窓、またはリモコンの発光部が汚れているとき
- 本製品とリモコンが複数台あるとき
- 電池が消耗してきたとき

2) 電池の取り付け／取りはずし

リモコンを使用するには、同梱の電池をセットする必要があります。

警告

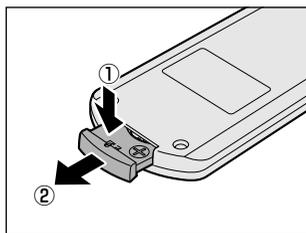
- リモコンに使用している電池は、幼児の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

注意

- リモコンに使用している電池の取り扱いについては、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 指定以外の電池は使用しない
 - ・ 極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しない
 - ・ 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中に入れてない
 - ・ 金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないこれらを守らないと、発熱・液もれ・破裂などにより、やけど、けがの原因となります。もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い医師の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

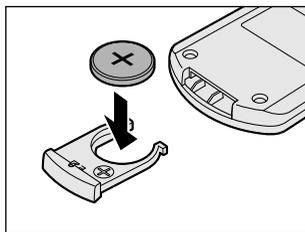
1 取り付け

1 リモコン裏側の電池カバーを引き出す



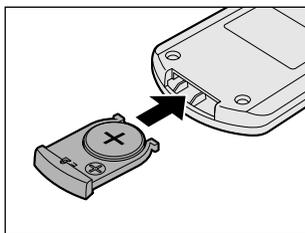
電池カバーの凹部分を先が細い丈夫なもの（細いボールペンの先など）で押しながら①、引き出します②。

2 電池をセットする



+（プラス）を上にしてセットしてください。

3 電池カバーを差し込む

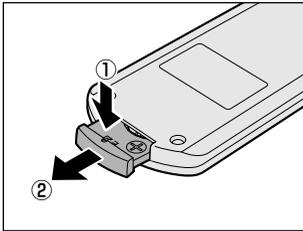


「カチッ」という音がするまで押してください。

2 取りはずし

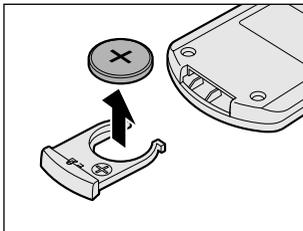
リモコンに使用している電池が消耗すると、リモコン操作ができなかったり、到達距離が短くなります。その場合は、市販のCR2025を購入のうえ、次のように電池を取りはずしてから、新しい電池を取り付けてください。

1 リモコン裏側の電池カバーを引き出す



電池カバーの凹部分を先が細い丈夫なもの（細いボールペンの先など）で押しながら①、引き出します②。

2 電池を取り出す



3 リモコンの各部名称

電源ボタン

パソコン本体の電源スイッチと同じ役割をします。

出力切替ボタン (⇨ P.172)

パソコン本体のTV出力切替ボタンと同じ役割をします。

音量ボタン

▲ ボタンを押すと音量が上がります。
▼ ボタンを押すと音量が下がります。

ミュートボタン

消音になります。

矢印ボタン

キーボードの矢印キーと同じ役割をします。

決定ボタン

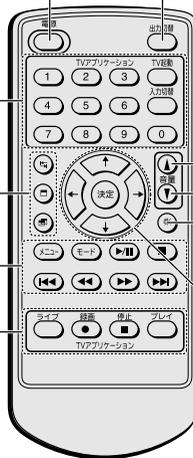
キーボードの[Enter]キーと同じ役割をします。

次頁の拡大図Aをご覧ください。

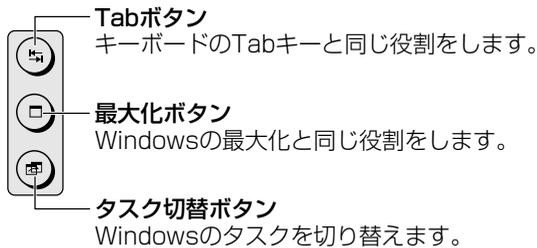
次頁の拡大図Bをご覧ください。

TVアプリケーションボタン

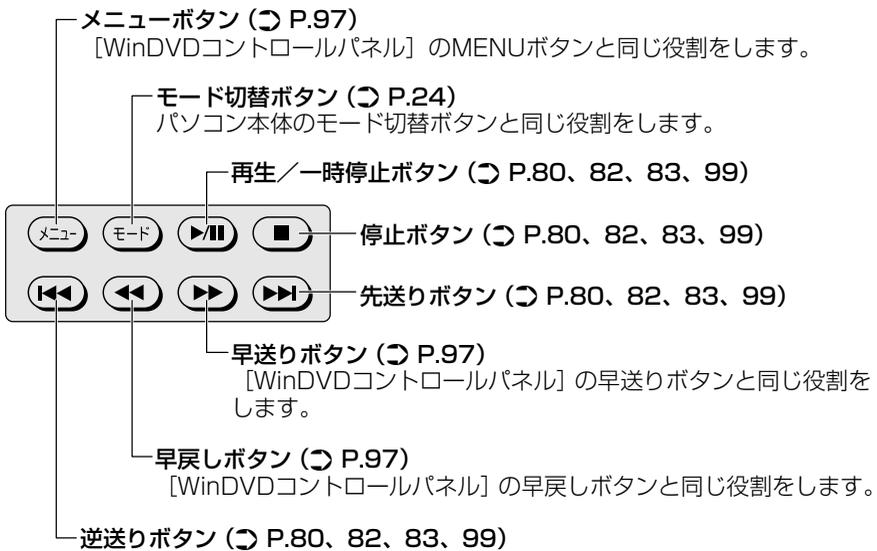
マルチスタイルベイにTVチューナを取り付けたときに使用します。
⇨ 『TVチューナに付属の説明書』



【拡大図 A】



【拡大図 B】



リモコンで操作できないように設定することもできます。

参照 ➡ 詳細について「本章 3-4 東芝コントロールで設定する」

リモコンの取り扱いと手入れ

リモコンを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- 落としたり、衝撃を与えないでください。
- 高温になる場所や湿度の高い場所には置かないでください。
- 水をかけたり、湿気の多いものの上に置かないでください。
- 分解しないでください。

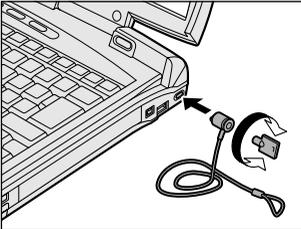
12 セキュリティロック

セキュリティロック・スロットに、チェーンなどを接続して、盗難を防止します。

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを、購入店に確認してください。

1 セキュリティロック用機器の取り付け

- 1 セキュリティロック・スロットに市販のセキュリティロック用の機器を接続する



2章

音楽と映像

音楽と映像を本製品で楽しむ方法について説明しています。

パソコンで音楽を聴く。それをCDに書き込んでオリジナルを作成する。写真やDVD-Videoの映像を観る。それを編集して個人コレクションを作るなど。パソコンの楽しみかたを紹介します。

-
- 1 音楽CDを聴く 78
 - 2 音楽ファイルを聴く 83
 - 3 オリジナル音楽CDを作る 87
 - 4 オリジナルMDを作る 92
 - 5 DVD-Videoを観る 93
 - 6 デジタルカメラの写真を編集／整理する 100
 - 7 映像を編集する 103

1 音楽 CD を聴く

本製品では Windows を起動している状態でも、また Windows を起動しない状態でも CD を聴くことができます。

メモ

音楽 CD の再生中に、パソコン本体に振動・衝撃を与えると、音飛びすることがあります。

1 Windows を起動して音楽 CD を聴く

Windows を起動して音楽 CD を再生するためには、音楽 CD に対応したアプリケーションが必要です。

本製品には次のアプリケーションがインストールされています。

- Windows ウィンドウズ Media メディア Player プレーヤ

1 再生方法

1 Windows が起動している状態で、音楽 CD をセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

購入時は、音楽 CD を再生するアプリケーションとして「Windows Media Player」が選択されています。

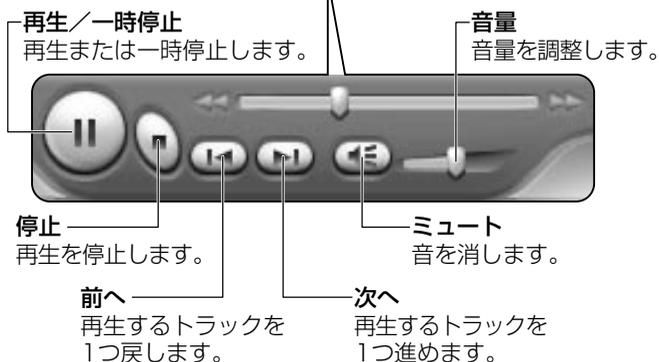
参照 ▶ CD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [オーディオ CD の再生 Windows Media Player 使用] が選択されていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする

「Windows Media Player」が起動します。

3 画面のボタンで操作する

「Windows Media Player」の各操作ボタンの役割は次のとおりです。



ヘルプの起動方法

- 1 「Windows Media Player」を起動後、メニューバーから「ヘルプ」→「トピックの検索」をクリックする

参照 → 「Windows Media Player」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンで起動する

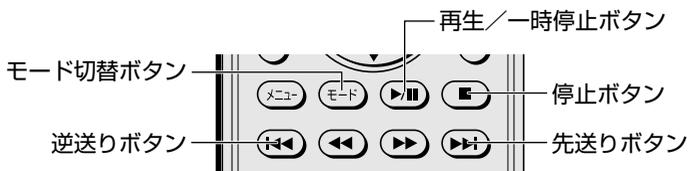
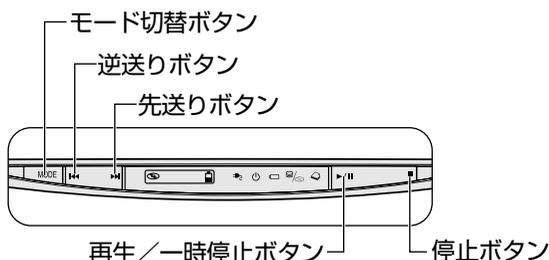
オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンを使ってアプリケーションを起動することができます。

1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン () が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生/一時停止ボタンを押す



逆送りボタン	1 つ前のトラックに戻って再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを 1 つ進めます。
再生/一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生中は、再生を停止します。 停止中は、ディスクトレイが出てきます。

「Windows Media Player」が起動します。

オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンでも、再生や停止などの操作ができます。

2 Windows を起動しないで音楽 CD を聴く

オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使うと、Windows を起動しないで音楽 CD を再生できます。

1 操作方法

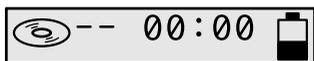
1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを押してください。



2 停止ボタンを押す

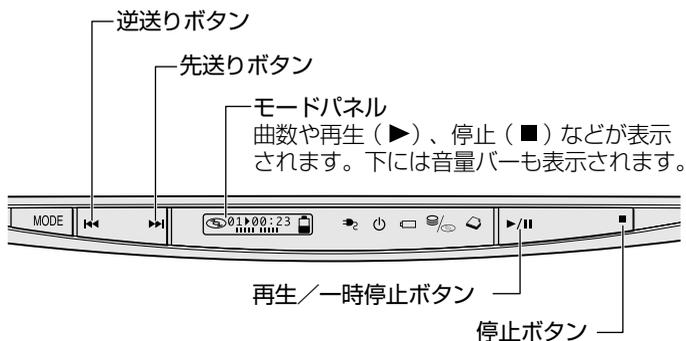
ドライブの電源が入り、モードパネルに次のように表示されます。Power LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



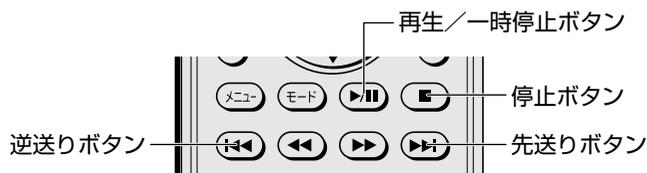
ドライブの電源を入れてから2分以上操作がない場合は、自動的にドライブの電源がOFFになり、モードパネルにはCD / DVD 再生アイコンのみ表示されている状態になります。その場合は、もう1度停止ボタンを押して電源を入れ直してください。

3 音楽 CD をセットする

4 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで操作する



リモコンで操作できるのは次のボタンです。



逆送りボタン	再生が始まって2秒未満（00：02が表示される前まで）に押すと、1つ前のトラックに戻って再生されます。 2秒以上たってから押すと、現在再生しているトラックの先頭から再生されます。
先送りボタン	再生するトラックを1つ進めます。
再生/一時停止ボタン	再生または一時停止します。
停止ボタン	再生中は、再生を停止します。 停止中は、ディスクトレイが出てきます。

5 終了する場合は、音楽 CD を取り出す

停止ボタンを押して再生を停止した後、もう1度停止ボタンを押すと、ディスクトレイが出てきます。

持ち運ぶときは、モード切替ボタンを4秒以上押してロック状態（) にしてください。オーディオ/アプリケーションボタンやリモコンで操作できなくなります（ロック状態）。

もう1度4秒以上押すか、電源を入ると、ロック状態が解除されます。

2 音楽ファイルを聴く

本製品では次のような音楽ファイルを再生できます。

- WAVE形式 (.wav) ●MIDI形式 (.mid) ●MP3形式 (.mp3) など

1 音楽再生用アプリケーションを起動する

オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使ってアプリケーションを起動することができます。

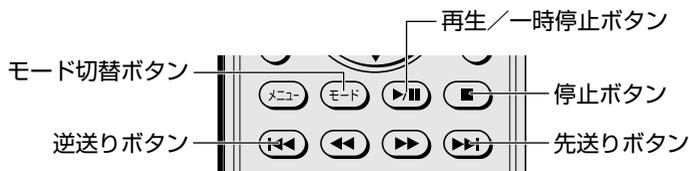
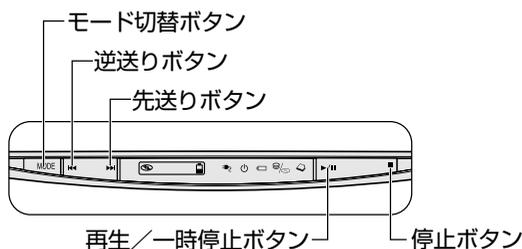
1 起動方法

1 モード切替ボタンを押す

モードパネルにオーディオデジタル再生アイコン（♪）が表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 再生／一時停止ボタンを押す



標準では「Windows Media Player」が起動します。

▶ 参照 Windows Media Playerの操作について
「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 Windows Media Player でファイルを再生する

まず、再生する音楽ファイルを用意してください。音楽ファイルは、インターネットからダウンロードしたりアプリケーションを使って自分で作ることもできます。

各音楽ファイルは「1トラック」として扱われます。

音楽ファイルには、曲名やアーティスト名などの情報が記録されていることがあります。これらの情報がある場合は、画面上に表示されます。

1 音楽ファイルを直接再生する

再生リストを作成していない場合は、次のように操作してください。

- 1 「Windows Media Player」のメニューバーから【ファイル】→【開く】をクリックする
- 2 聴きたい曲のファイルを選択し①、【開く】ボタンをクリックする②



再生が開始されます。

参照 → Windows Media Player の操作について
「本章 1-① Windows を起動して音楽 CD を聴く」

2 再生リストを作成する

ファイルを好きな順序に並べた再生リストを作成すると、複数の音楽ファイル（CD、ラジオ局、およびビデオからの複数のトラックなど）をグループ化して、指定した順序で再生することができます。

1 メディアライブラリにファイルを追加する

- 音楽 CD のトラックをコピーする場合
 - ① 音楽 CD をセットする
 - ② [CD からコピー] ボタンをクリックする
 - ③ コピーするトラックをチェックする
 - ④ [音楽のコピー] ボタンをクリックする

- ファイルを追加する場合
 - ①メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [ファイルを追加] をクリックする
 - ② [ファイルを開く] 画面でファイルを選択する
- インターネット上の音楽ファイルなどのマルチメディアを追加する場合
 - ①メニューバーから [ファイル] → [メディアライブラリに追加] → [URL を追加] をクリックする
 - ② [開く] 画面で URL またはパスを指定する

2 画面左の [メディアライブラリ] ボタンをクリックする

画面が切り替わります。

3 [すべてのオーディオ] をクリックする



メディアライブラリに追加されているファイルが表示されます。

4 [新しい再生リスト] ボタンをクリックする



5 [新しい再生リスト] 画面で、再生リストの名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②



ここでは例として「新規リスト」とします。

[新規リスト] が [再生リスト] フォルダに追加されます。

6 メディアライブラリの中から再生リストに追加するファイルをクリックする



7 [再生リストに追加] ボタンをクリックしてメニューを表示し、目的の再生リストを選択する



ここでは例として「新規リスト」を選択します。

ファイルが再生リストに追加されます。
新しい再生リストが作成されました。

3 再生リストから再生する

1 [メディアライブラリ] 画面で、目的の再生リストをクリックする



リストの内容が右画面に表示されます。

2 [再生] ボタン (▶) をクリックする 再生が開始されます。

3 オリジナル 音楽 CD を作る

「Drag'n Drop CD」は、CD-RW、CD-R にデータを書き込むことができるアプリケーションです。

ここでは、オリジナルの音楽 CD を作成する手順について説明します。

データのバックアップを作成する手順については、『困ったときは 2 章 2 バックアップをとる』を参照してください。

1 Drag'n Drop CD を使うために

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、「Drag'n Drop CD」を使用してください。Windows標準のライティング機能や市販のライティングソフトは、使用しないでください。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。インストールしてから使用してください。

▶ 参照 「Drag'n Drop CD」のインストールについて
「本項 1 インストール方法」

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

▶ 参照 CD-RW、CD-R について 「1 章 9-1 CD / DVD について」

- 本製品に添付の「Drag'n Drop CD」以外の CD-RW、CD-R 書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込み用ソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
- スクリーンセーバなど CPU に負担のかかるソフトウェアは動作しないように設定してください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動している場合は、終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。

▶ 参照 省電力機能について 「5 章 2 省電力の設定をする」

- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SD メモリカード、フロッピーディスク、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PC カード、USB 対応機器、CRT ディスプレイ、i.LINK 対応機器、光デジタル対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 本製品に付属している「Drag'n Drop CD」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「Drag'n Drop CD」の [Music BOX] () を使用して、DVD-RW、DVD-R に音楽情報を書き込むことはできません。

「Drag'n Drop CD」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

1 インストール方法

1 添付の CD をセットする

〔設定言語の選択〕画面が表示されます。

 参照 CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

- 2 【日本語】が選択されていることを確認し、【OK】ボタンをクリックする
[Drag'n Drop CD セットアップ] 画面が表示されます。
- 3 画面の指示に従って「Drag'n Drop CD」をインストールする
- 4 再起動する

2 Drag'n Drop CDを使う

インストールされた「Drag'n Drop CD」は、自動的に起動しデスクトップ上にアイコンが表示されます。

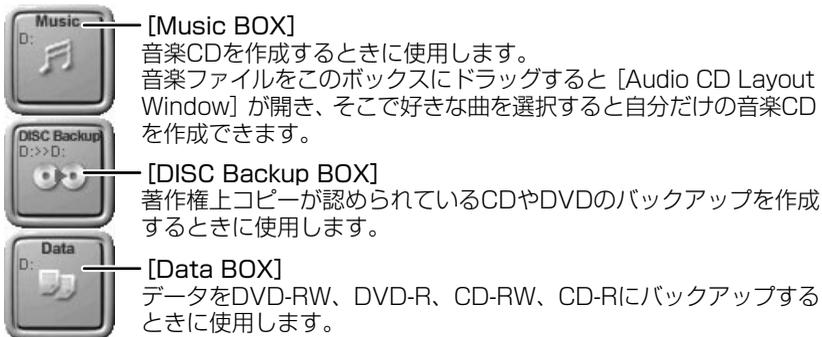
「Drag'n Drop CD」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CD] をクリックする
デスクトップ上に、アイコンが表示されます。

2 Drag'n Drop CDの基本操作

デスクトップに表示されるアイコンは、次のような役割をもっています。



▶ 参照 詳細について『困ったときは2章2 バックアップをとる』

「Drag'n Drop CD」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。CDに保存されているMP3方式またはWAVE方式の音楽ファイルを使用して音楽CDを作成する場合は、CDから直接 [Music BOX] にドラッグできません。1度ハードディスクに保存してから音楽CDを作成してください。

3 音楽CDを作成する

1 音楽CDをドライブにセットする

[Audio CD (D:)] 画面が表示されます。

2 [キャンセル] ボタンをクリックする

[Audio CD (D:)] 画面が閉じます。

3 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

4 [Audio CD (D:)] アイコン () を、[Music BOX] にドラッグアンドドロップする

[Audio CD Layout Window] 画面が表示され、[音楽 CD トラック情報] には曲情報が表示されています。

5 [ブランク CD サイズ] を指定する

6 書き込みたいトラックを選択する

トラックは複数選択できます。

[トラックの再生] ボタン () をクリックすると試し聴きできます。



7 [選択トラックをリストに追加] ボタン () をクリックする

デジタル抽出が開始されます。デジタル抽出が完了するまで、しばらくかかります。進行状況は、[デジタル抽出状況] のバーで確認できます。完了すると、[ベストアルバムトラック情報] に抽出した曲が表示されます。



トラックを選択して、  ボタンまたは  ボタンをクリックすると、選択したトラックが上下へ移動し、曲順が入れ替わります。不要なトラックは  ボタンで削除できます。

他の音楽CDからも取り込みたい場合は、ここで音楽CDを入れ替え、手順6、7を繰り返します。

8 ドライブに未使用のCD-Rをセットする

9 [CDへ書き込み] ボタン () をクリックする

CDへの書き込みが開始されます。書き込み中は進行状況を示す画面が表示されます。

書き込みが終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。

ヘルプの起動方法

「Drag'n Drop CD」の詳しい情報は、ヘルプを確認してください。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Drag'n Drop CD] → [Drag'n Drop CDのヘルプ] をクリックする

「Drag'n Drop CD」のヘルプが表示されます。

 参照 「Drag'n Drop CD」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 オリジナル MD を作る

光デジタルオーディオ出力端子に MD レコーダを接続すると、音楽 CD から MD レコーダへの録音ができます。

お願い

録音中は Windows の「マスタ音量」の設定を変更しないでください。パソコンの再生音量を変更すると、MD レコーダでの録音レベルも変更されてしまいます。録音中のパソコン本体からの再生音を消したい場合は、あらかじめボリュームダイヤルを動かなくなるまで手前に回し、音量をゼロにしておいてください。

参照 ▶ マスタ音量について「1 章 8-① スピーカの音量を調整する」

1 録音方法

1 音楽 CD をセットする

2 光デジタルオーディオ出力端子と MD レコーダを接続する

プラグの形状を確認して接続してください。

参照 ▶ 光デジタルオーディオ出力端子について
「4 章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

3 「Windows Media Player」で再生リストを作成する

参照 ▶ 再生リストの作成
「本章 2-② Windows Media Player でファイルを再生する」

4 MD レコーダの録音ボタンを押す

5 「Windows Media Player」で再生リストを再生する

録音が始まります。

5 DVD-Video を観る

本製品は、ドライブにDVD-Video をセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーファイティ InterVideo WinDVD」が用意されています。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD 再生」モードに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、マルチモニタ（内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示）の設定では、外部ディスプレイに表示されません。

参照▶ 表示装置の切り替え「4章 6-2 テレビに表示する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme\st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」は Windows からでも、Windows が起動していない状態（電源が入っていないなど）でも起動することができます。

1 Windowsから起動する

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 → DVD のセットについて『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

2 [DVD ムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンから起動する

Windows が起動していないときに、オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで「InterVideo WinDVD」を起動できます。

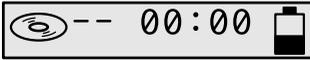
1 モードパネルに CD / DVD 再生アイコン()が表示されていることを確認する

CD / DVD 再生アイコンが表示されていない場合は、表示されるまで、モード切替ボタンを何度か押してください。



2 停止ボタンを押す

ドライブの電源が入り、モードパネルが次のように表示されます。
Power LED は点灯しません。しばらくしてディスクトレイが出てきます。



3 DVD-Video をセットする

ディスクトレイを閉じて、しばらくすると Windows が起動し、その後「InterVideo WinDVD」が起動します。Windows が起動するまで、数秒かかる場合があります。
DVD-Video を再生する場合は、続けて [再生] ボタンをクリックしてください。

2 InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

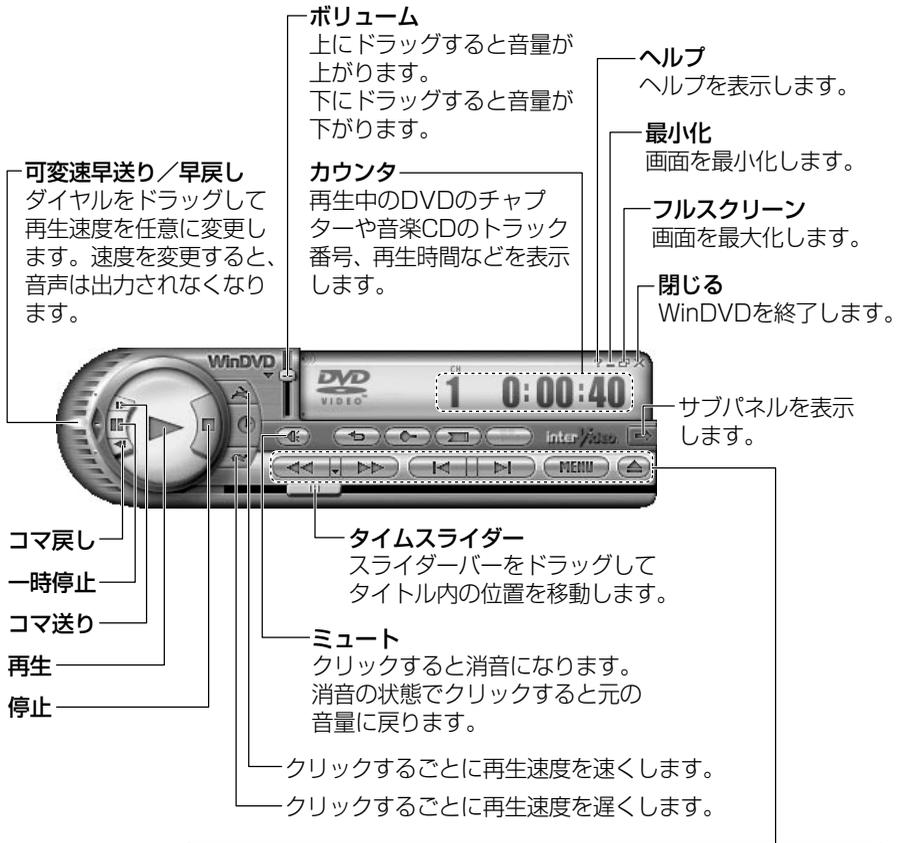
メインウィンドウ
ビデオを表示します。



WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。再生の操作でおもに使用するボタンについては、「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 サブパネル

サブパネルで、再生する DVD に応じてオーディオ、ビデオ、その他の付加機能を調節することができます。

【サブパネルの表示と切り替え】

- 1 WinDVD コントロールパネルの [サブパネル] ボタンをクリックする



- 2 表示されたメニューから調節する機能を選択し、クリックする

【サブパネルの非表示】

表示しているサブパネルを閉じる場合は、次のように操作してください。

- 1 [サブパネルを閉じる] ボタンをクリックする



3 基本設定の変更

「InterVideo WinDVD」を使用するときの全体的な設定は [セットアップ] 画面で行います。この設定は、再生するすべてのディスクに適用されます。

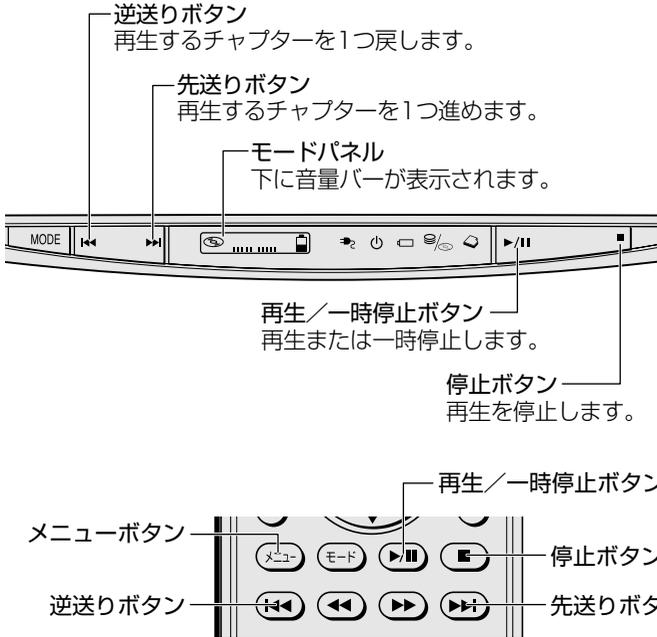
- 1 サブパネルの [セットアップ] ボタンをクリックする



[セットアップ] 画面が表示されます。
各タブで設定を行ってください。

4 オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで操作する

DVD-Video の基本操作は、オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使うこともできます。



5 テレビに表示する

パソコン本体にテレビを接続して、DVD-Video の再生画面をテレビに表示させることができます。

テレビに表示するには、表示装置の切り替えが必要です。

表示装置の切り替えは、「InterVideo WinDVD」を起動する前に行ってください。

▶ **参照** テレビの接続、表示装置の切り替え 「4章 6 テレビを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVD コントロールパネルの [ヘルプ] ボタン () をクリックする

▶ **参照** 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

6 デジタルカメラの写真を編集/整理する

本製品には、画像を編集できるアプリケーション「ウォーカー ユーリード アイフォトデジカメ Walker (Ulead iPhoto エクスプレス Express)」が用意されています。

1 デジカメ Walker を使う

「デジカメ Walker」を使うと、写真などの画像を簡単に編集できます。編集した画像を使ってカードや Web ページを作成したり、アルバムを作って画像を管理することもできます。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Ulead iPhoto Express] をクリックする

ショートカットバー
よく使う操作をボタンから行うことができます。

モードを選択します。
管理、編集、テンプレートから選択できます。

コマンドパネル
モードによってコマンドが変わります。
作業領域で行う作業を選択します。

オプションパネル
コマンドによって表示が切り替わります。詳しい設定ができます。

作業領域
イメージやプロジェクトを見たり編集したりする場所です。

サムネイルストリップ

開いているイメージやプロジェクトのサムネイル（一覧表示画像）が表示されます。

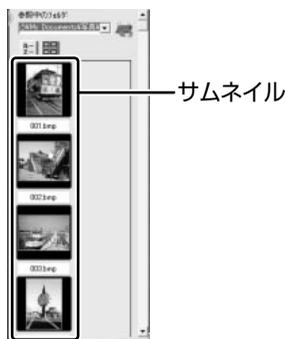
「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を初めて起動したときは、
[ユーザ登録] 画面が表示されます。

2 写真を編集する

ここでは、デジタルカメラで撮った写真をパソコンにファイルとして取り込んだ状態で、編集を加える場合について説明します。

デジタルカメラからパソコンへの取り込みかたは、接続するデジタルカメラによって異なります。詳しくは、『デジタルカメラに付属の説明書』を確認してください。

- 1 **【編集】モード** () でコマンドパネルから **【フォト取り出し】** → **【マイコンピュータ】** をクリックする
オプションパネルに **【参照中のフォルダ】** が表示されます。
- 2  をクリックし、表示されたメニューから **編集する写真のあるフォルダ** をクリックする
オプションパネルにサムネイルが表示されます。
- 3 **編集する画像のサムネイル** をクリックし、**【開く】** ボタンをクリックする



作業領域に画像が表示されます。

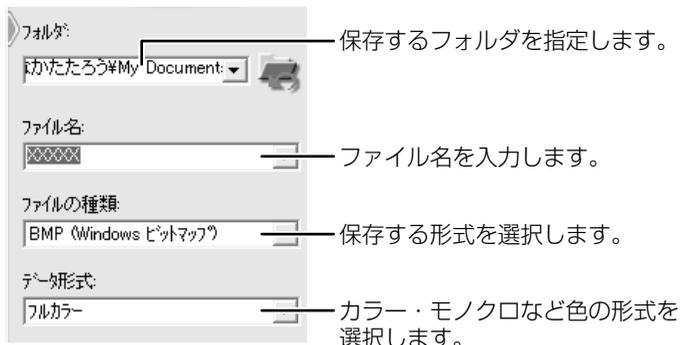
- 4 コマンドパネルから **【編集】** のメニューをクリックし、**画像を加工する**

次のメニューから、画像にさまざまな効果を加えることができます。

調整	画像の切り抜き、サイズや明るさ／色の調整などを行います。
選択範囲	用途や形、色に基づいて範囲を選択します。
テキスト	画像に文字を書き込みます。文字にもいろいろな効果を選べます。
ペイント	筆で絵に色をつけるように、画像にさまざまな効果を加えます。
装飾	縁取りやイラスト、影の追加などが行えます。

3 加工した画像を保存する

- 1 コマンドパネルから [共有] → [保存] をクリックする
オプションパネルに、保存についての項目が表示されます。



- 2 [保存] ボタンをクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [Ulead iPhoto Express のヘルプ] をクリックする

PDF マニュアルの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [デジカメ Walker] → [Screenbook] をクリックする

▶ 「デジカメ Walker」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

7 映像を編集する

1 映像編集の流れ

本製品には、映像を編集することができるアプリケーション「MotionDV STUDIO」モーションディーバイ スタジオ「DVDfunSTUDIO」ディーブイディーファンスタジオ「DVD-MovieAlbum」ディーブイディームービーアルバムが用意されています。また、「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」を使ってDVD-Video形式の映像DVDを作成することができます。

映像を編集する流れは、次のとおりです。



2 アプリケーションをインストールする

「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」は、本製品にはインストールされていません。次の手順に従って、インストールしてください。

お願い

- アプリケーションのインストールは、アカウントがコンピュータの管理者のユーザで行ってください。

1 MotionDV STUDIOのインストール方法

1 「MotionDV STUDIO」と記載されているCDをセットする

参照▶ CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「MotionDV STUDIO」をインストールする

2 DVDfunSTUDIOのインストール方法

1 「DVDfunSTUDIO」と記載されているCDをセットする

参照▶ CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVDfunSTUDIO」をインストールする

3 DVD-MovieAlbumのインストール方法

1 「DVD-MovieAlbum」と記載されているCDをセットする

参照▶ CDのセット『基本をマスター 1章 1-③ CD / DVD』

2 画面の指示に従って「DVD-MovieAlbum」をインストールする

3 映像を編集する

「MotionDV STUDIO」を使うと、デジタルビデオカメラなどの映像を編集できます。デジタルビデオカメラをi.LINK (IEEE1394) コネクタに接続して、撮影した映像をパソコンに取り込みます。特殊効果やタイトル、BGMなどをつけて編集し、さまざまな形式で保存できます。

詳細については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

お願い 映像データの編集について

- WinDVD など映像を表示するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示できない場合があります。編集中は他のアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは内部液晶ディスプレイにのみ表示されます。本体に外部ディスプレイを接続している場合、外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護された映像が保存されている DVD-RW、DVD-R の映像の編集は「MotionDV STUDIO」では行えません。
- 「DVD-MovieAlbum」では著作権保護されているコンテンツは再生できません。検出した時点で、再生を中止します。

- 「MotionDV STUDIO」動作中は、画面の解像度・色数の変更は行わないでください。

1 MotionDV STUDIO の起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Panasonic] → [MotionDV STUDIO] → [MotionDV STUDIO] をクリックする
はじめて「MotionDV STUDIO」を起動したときは、[Panasonic MotionDV STUDIO 使用許諾書] 画面が表示されます。契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。

TOOL BOX

目的の操作機能を選ぶことができます。ここで選んだ機能に合わせて、ワークエリアに表示される画面が切り替わります。

ワークエリア

接続したデジタルビデオカメラをコントロールしたり、取り込んだ映像を編集するエリアです。それぞれの機能別に画面が分かれています。



ガイダンス画面

TOOL BOXで選んだ機能に関する操作の説明が表示されます。

2 デジタルビデオカメラを接続する

デジタルビデオカメラを使用する場合、次の手順で正しく接続されているかどうか、確認してください。

- 1 i.LINK (IEEE1394) ケーブルをパソコン本体に接続する

参照 → i.LINK ケーブルの接続

「4章 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する」

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをデジタルビデオカメラに接続する
- 3 デジタルビデオカメラの電源を入れる
[デジタル ビデオ デバイス] 画面が表示されます。
- 4 [ビデオの編集 Panasonic MotionDV STUDIO 使用] が選択されていることを確認し①、[OK] ボタンをクリックする②



「MotionDV STUDIO」が起動します。デジタルビデオカメラの映像をパソコンに取り込む方法については、「MotionDV STUDIO」のヘルプを確認してください。

MotionDV STUDIO のヘルプの起動方法

- 1 「MotionDV STUDIO」を起動後、メニューバーから [ヘルプ] → [ヘルプ] をクリックする
ヘルプを起動すると「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

▶ 「MotionDV STUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

4 編集した映像を書き込む

編集した映像データを DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R に書き込み、オリジナル DVD を作成することができます。

「MotionDV STUDIO」で編集したデータを DVD-RW や DVD-R に書き込むには、「DVDfunSTUDIO」、DVD-RAM に書き込むには「DVD-MovieAlbum」が必要です。あらかじめそれぞれのアプリケーションをインストールして使用してください。

お願い 編集した映像データを書き込む前に

編集した映像データを書き込む場合は、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行う際には、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨されているメディアを使用してください。

参照▶ DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R について
「1章 9-① CD / DVD について」

- 「DVDfunSTUDIO」では、8cm (3.15") の DVD-RW、DVD-R への書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RW、DVD-R に VR フォーマットでの書き込みはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、書き込みが可能な DVD-RW、DVD-R へ最大約 3 時間の映像データを DVD ビデオフォーマットで記録できます。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-Audio や Video CD、miniDVD を作成することはできません。
- 「DVDfunSTUDIO」では、DVD-RAM をサポートしていないため、DVD-RAM に DVD-Video 形式のデータを書き込むことはできません。また、DVD-RAM をドライブにセットした状態で動作させると正しく処理ができない場合があります。
- 「DVDfunSTUDIO」で DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行うには、ハードディスクに 20GB 以上の空き容量が必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。
- 書き込み済みの DVD-RW へ書き込みを行う場合は、「Drag'n Drop CD」などで消去する必要があります。消去方法については、「Drag'n Drop CD」のヘルプを確認してください。

参照▶ 「Drag'n Drop CD」のヘルプ「本章 3-② Drag'n Drop CD を使う」

- 「DVD-MovieAlbum」で DVD-RAM へ書き込むには、あらかじめフォーマットツールで UDF2.0 形式のフォーマットをしておく必要があります。

参照▶ DVD-RAM のフォーマット「1章 9-② DVD-RAM を使うときは」

- 「DVD-MovieAlbum」で PAL 形式の映像を保存した DVD-RAM には、PAL 形式の映像しか追記できません。また、NTSC 形式の映像を保存した DVD-RAM には、NTSC 形式の映像しか追記できません。

- 「DVD-MovieAlbum」でPAL形式でDVD-RAMに保存された映像はNTSC形式に変換できません。また、NTSC形式でDVD-RAMに保存された映像は、PAL形式に変換できません。
- DVD-RAMでVRフォーマットした場合、次の機能は使用できません。
マルチストーリー マルチアングル マルチアスペクト比
マルチランゲージ パレンタルロック リージョンコード コピーガード
- ヘルプやオンラインマニュアル上にJPEGファイルが扱える記述がありますが、実際には使用できません。
- 本製品に添付の「MotionDV STUDIO」「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」以外の映像データ書き込み用ソフトウェアは動作保証していません。
- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプタを電源コンセントに接続してください。
- 「Drag'n Drop CD」などドライブをロックするアプリケーションが常駐している場合は、DVD-RAM、DVD-RW、DVD-Rへの書き込みは行えません。「Drag'n Drop CD」は必ず終了させてください。
- スクリーンセーバなどCPUに負担のかかるソフトウェアは動作しないようにしてください。
- ウイルスチェックソフトを起動している場合は、終了させてください。
- モデムなど、通信アプリケーションを起動している場合は、終了させてください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。
 - ▶ **参照** 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」
- 常駐型のディスクユーティリティやディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどは、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- 「DVDfunSTUDIO」でDVD-RW、DVD-Rに映像データを書き込む場合、映像データの大きさによってはデータの変換に数時間かかることがあります。またディスクの書き込み終了までには、さらに数時間かかることがあります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
マルチスタイルベイ機器、PCカード、USB対応機器、CRTディスプレイ、i.LINK対応機器、光デジタル対応機器、SDメモ리카ード

- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- オーディオ／アプリケーションボタンやリモコンを使用して音楽／音声の再生を行わないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

お願い 作成した映像データについて

- 作成した DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R は、一部の家庭用 DVD ビデオレコーダやパソコンでは再生できない場合があります。
- 本製品で再生する場合は、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、再生してください。

1 DVDに書き込む

「MotionDV STUDIO」で編集した映像データを、いったん「DVDfunSTUDIO」「DVD-MovieAlbum」(VRWriter)へ出力し、その後 DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R へ書き込みを行います。

- 1 映像の編集を終了したあと、TOOL BOX の [出力] アイコンにポインタを合わせ①、[DVD-R/RW へ出力] アイコンまたは [DVD-RAM へ出力] アイコンをクリックする②



[DVD-R/RW 出力] 画面または [DVD-RAM 出力] 画面が表示されます。

メモ

ファイルの選択をうながすメッセージが表示された場合は、ワークエリアでファイルを選択してから、再度手順 1 の操作を行ってください。その際、[DVD-R/RW 出力]画面や[DVD-RAM 出力]画面が表示されずに、直接「DVDfunSTUDIO」や「VRWriter」が起動する場合があります。

次の画面は [DVD-R/RW 出力] 画面です。
画面の構成は [DVD-RAM 出力] 画面も同じです。

コントロール画面

書き込みをしたい映像を表示して確認することができます。

ライブラリ画面

ハードディスクに保存・登録してあるファイルが表示され、閲覧することができます。ここから読み込みたいファイルをドラッグアンドドロップして指定することもできます。



入出力画面

書き込みたいファイルを指定して名前を付けたりすることができます。
[出力] ボタンをクリックすると、書き込み用のアプリケーションが起動します。

DVD-RW、DVD-R への書き込み用アプリケーションは「DVDfunSTUDIO」、
DVD-RAM への書き込み用アプリケーションは「DVD-MovieAlbum」内の
「VRWriter」です。

はじめて起動したときは、使用許諾書画面が表示されます。
契約内容を確認のうえ、[同意します] ボタンをクリックしてください。
「DVDfunSTUDIO」が起動したら、ドライブに DVD-RW または DVD-R をセット
してください。「VRWriter」が起動したら、ドライブに DVD-RAM をセットして
ください。

参照 → CD のセット『基本をマスター 1 章 1-③ CD / DVD』

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R への書き込み方法についての詳細は、
「MotionDV STUDIO」のヘルプ、「DVDfunSTUDIO」のヘルプ、「VRWriter」
のヘルプを確認してください。

DVDfunSTUDIO のヘルプの起動方法

- 1 「DVDfunSTUDIO」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする

ヘルプを起動すると、「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

 参照 「DVDfunSTUDIO」の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

VRWriter のヘルプの起動方法

- 1 「VRWriter」を起動後、[ヘルプ] ボタン () をクリックする
- 2 表示されたメニューから [VRWriter のマニュアル] をクリックする
ヘルプを起動すると、「Acrobat Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

 参照 「VRWriter」(「DVD-MovieAlbum」)の問い合わせ先
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、自動的にメールチェックするときや海外でインターネットに接続するときに必要な設定について紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 114
 - 2 Bluetooth 機能を使う 129
 - 3 新着メールをモードパネルで確認する 140
 - 4 内蔵モデムについて 149

1 LANへ接続する

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド対応のLAN機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

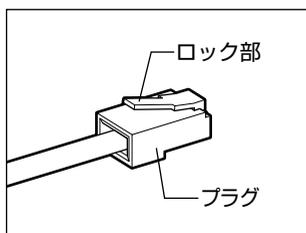
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときには、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときには、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。

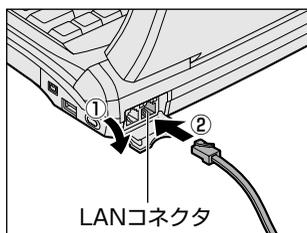
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したものです。カテゴリ1～5まであり、数字が高いほど品質が高くなります。



LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 背面のコネクタカバーを開き①、LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む②



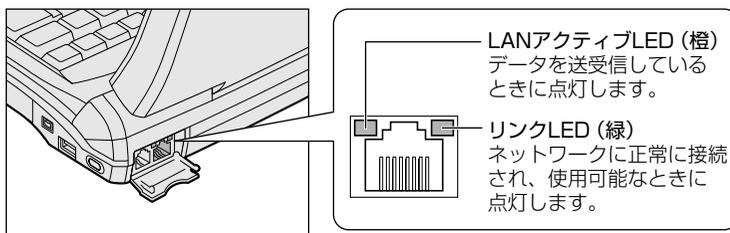
ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、《サイバーサポート》を確認してください。また会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 LANコネクタに関するインジケータ

LANコネクタの脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



3 Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

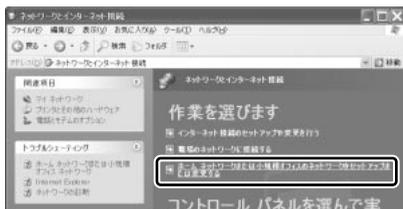
購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

⚠ 注意

- ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

本製品には、無線 LAN 機能が内蔵されています。

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品では、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能。11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化（WEP）

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wireless Ethernet Compatibility Alliance, WECA 認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11bに準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。

-  は Wireless Ethernet Compatibility Alliance, Inc. の認証マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 **参照** WEP機能の設定「本項4-WEP機能を設定する」

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国で適用される無線規制については、「付録4-6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような機能があります。

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する

 **参照** 「ピア・ツー・ピアワークグループ」

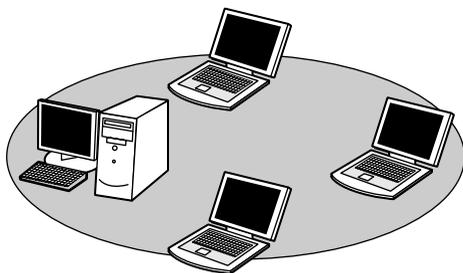
- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

 **参照** 「インフラストラクチャネットワーク」

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。パソコンなどのデバイス同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

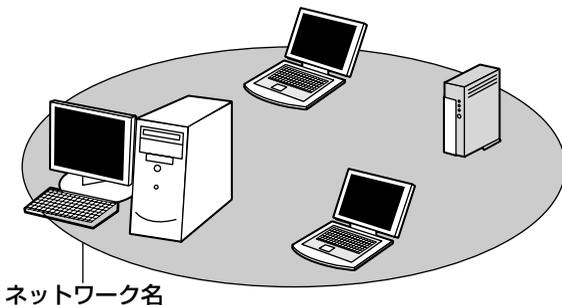
➡ 参照 ▶ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。ネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

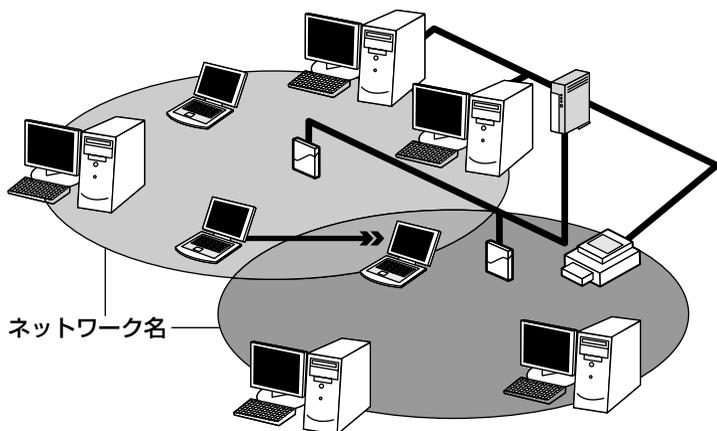
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込むネットワーク形態です。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

▶ 参照 ネットワーク接続のための設定について「本項 3 基本設定」

3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

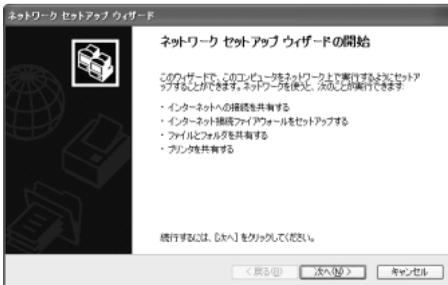
Windows XPは、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

ネットワーク設定の方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする



[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

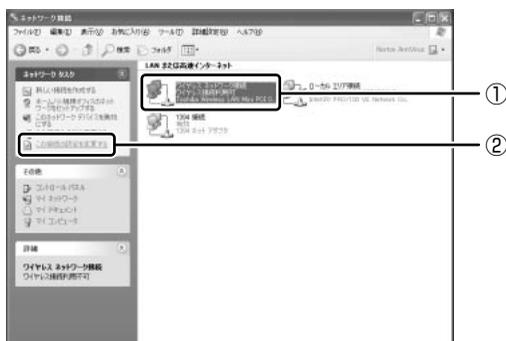


4 詳細設定

無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128ビットと 64ビットの 2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合
[キーは自動的に提供される]がチェックされていることを確認する
- ネットワークキーが自動的に提供されない場合
 - ① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす
 - ② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

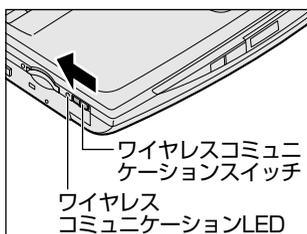
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (📶) LED がオレンジ色に点灯します。

無線 LAN 機能が起動します。

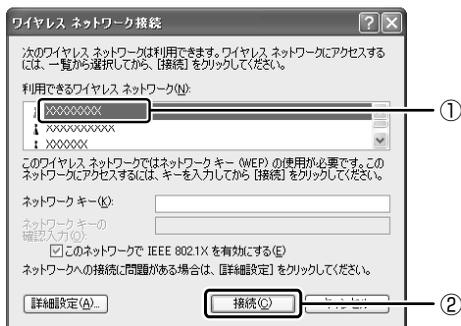
無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン (📶) を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

- 3 [利用できるネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、
[接続] ボタンをクリックする②



接続できると、通知領域に「ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました」とメッセージが表示されます。

- 4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする
- 無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

役立つ 操作集

通信状態を確認する

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート』を参照してください。
《サイバーサポート》でも検索できます。

3 ネットワーク設定／デバイスを切り替える

「ネットワークデバイススイッチ」を使って、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。ネットワーク設定をプロファイルとして管理し、プロファイルを選択するだけで、以前設定したネットワークの設定内容に切り替えることができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を簡単に切り替えられます。

自動切り替え機能では、LAN ケーブルが抜かれたとき、もしくは無線ネットワーク (SSID) を検知したときに自動で LAN 接続 (有線 LAN / 無線 LAN) の切り替えを行います。例えば、リビングルームでは有線 LAN に接続し、書斎に移動したときは無線 LAN でネットワークに接続するといった使いかたができます。

詳しくは、「ネットワークデバイススイッチ」のヘルプを参照してください。

起動方法

コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Network Device Switch] → [Network Device Switch] をクリックする

初めて起動したときは、「現在のネットワーク設定を以下のプロファイルで作成しました。」というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

- 2 [タスクバーに常駐する。] をチェックし①、[終了] ボタンをクリックする②



通知領域にアイコン () が表示されます。

使用方法

次のように操作して、デバイスを簡単に切り替えできます。

1 通知領域の [Network Device Switch] アイコン () をクリックする

デバイスの一覧が表示されます。

2 使用したいデバイスをクリックする

切り替えが行われます。

ネットワークデバイスを切り替えただけで、ネットワークにログオンし直す必要がある場合があります。

その他の機能

通知領域の [Network Device Switch] アイコン () を右クリックするとメニューが表示されます。それぞれのメニューをチェック () すると、次のような機能が使用できます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)
有線 LAN デバイスのケーブルが抜けた際、自動的に無線 LAN が有効になります。また、有線 LAN デバイスのケーブルが接続されると、自動的に無線 LAN から有線 LAN に切り替えます。
この機能は、以下の条件で有効になります。
 - ・ 有線 LAN がすでに有効になっていること
 - ・ TCP/IP プロトコルが使われていること
- 自動切り替え (SSID)
[自動切り替え (SSID)] 画面が表示され、自動切り替え (SSID) を有効に設定するなどが行えます。
- プロファイルの追加
[プロファイルの追加] 画面が表示され、プロファイルを新たに作成することができます。
- プロファイルの削除
[プロファイルの削除] 画面が表示され、プロファイルを削除することができます。
- プロファイル編集
[プロファイルの編集] 画面が表示され、既存のプロファイルの内容を変更することができます。
- メイン
[Network Device Switch (メイン)] 画面が表示されます。

-
- 診断
TCP/IP 設定を診断します。
 - ヘルプ
ヘルプを表示します。
 - 終了
「ネットワークデバイススイッチ」を終了します。

2 Bluetooth 機能を使う

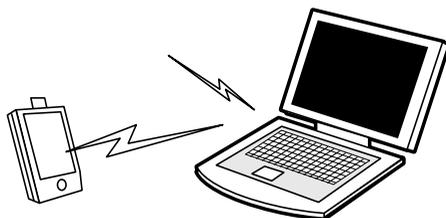
1 Bluetooth とは

ブルートゥース

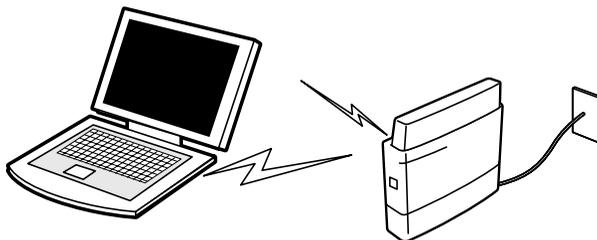
Bluetooth とは、無線の通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD メモリカードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のモデムステーションを利用してインターネットに接続できたりします。

- PDA と…

(使用例)



- Bluetooth 対応のモデムステーションと…



また、Bluetooth 機能機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、最初に発信する Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1 の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

お願い

本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。

【通信距離と速度】

本製品は、見通し約 10 m の範囲で通信できます。赤外線通信のように、コネクタを向き合わせる必要はありません。データ通信速度は最大約 720kbps です。通信距離、通信速度は、周囲の電波環境、障害物設置環境、アプリケーションソフトウェア、OS などにより異なります。また、周囲の電波環境などにより通信が切断される場合があります。

【セキュリティ】

Bluetooth 機能を使って通信を行うときに使用する 2.4GHz 帯は、日本をはじめ世界各国で特別な認可なしに使用できる周波数帯域です。そのため、不特定の Bluetooth 対応機器から接続されたり、同じ周波数帯域を使用する他の機器（電子レンジなど）の電波の干渉を受ける可能性があります。

Bluetooth 対応機器には、それぞれ固有の ID が割り振られ、接続時には ID の交換を行ったり、通信中は、使用周波数をランダムに切り替えるなど、他の機器からの干渉を軽減する仕様になっているので高いセキュリティ機能があります。また、本製品にインストールされている「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の「Bluetooth Service Center」で、初めて通信を開始するときに「Bluetooth パスキー」が必要になる設定もできます。Bluetooth パスキーについては、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」のヘルプ『Bluetooth User's Guide』を参照してください。

参照 ▶ 『Bluetooth User's Guide』の起動方法「本節 ④ - ヘルプの起動」

【Bluetooth 標準規格】

Bluetooth は様々な機器同士で無線通信できることを目標にした無線技術です。そのため、各国・各メーカーの Bluetooth 対応機器でスムーズに通信できるように Bluetooth SIG (Special Interest Group) が無線通信の方式など相互接続に必要な仕様の標準規格を定めています。また、各メーカーは Bluetooth 対応機器の発売にあたり、その Bluetooth 対応機器が Bluetooth 標準規格に適合しているか、認証を受けることを義務付けられています。Bluetooth SIG によって認証された Bluetooth 対応機器には、Bluetooth ロゴが添付されます。この規格に従えば、今後はゲーム機や家電など、さまざまな機器がワイヤレスで接続、コントロールできるようになると言われています。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしているプロファイルは次のとおりです。

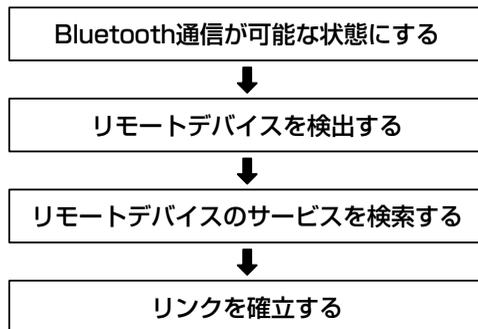
- Generic Access
- Service Discovery Application
- Serial Port
- Dial-up Networking
- FAX
- LAN Access

2 Bluetooth機能を使って通信する

本製品には、他のBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth 東芝ユーティリティ」がプレインストールされています。

「Bluetooth 東芝ユーティリティ」は、「Bluetooth Manager」、「Bluetooth Service Center (Bluetooth サービスセンター)」、「Bluetooth Local COM」、「Network Server Service (LAN エミュレーションネットワークサーバーサービス)」の4つのアプリケーションにより構成されており、その中心となるのは「Bluetooth Manager」と「Bluetooth サービスセンター」です。

ここでは「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の基本的な使いかたを紹介します。通信するまでの流れは、次のとおりです。



1 Bluetooth通信が可能な状態にする

お願い

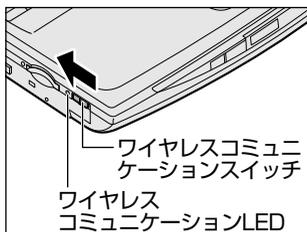
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

Bluetooth機能の起動方法

- 1 本体左側面にあるワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



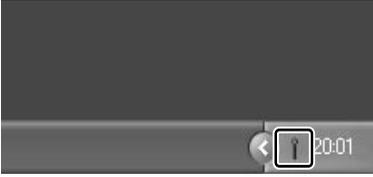
ワイヤレスコミュニケーション (P) LED がオレンジ色に点灯します。

- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [Bluetooth Manager] をクリックする

「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン (I) が表示されます。

初めて起動したときは、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が何度か表示されます。画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので [続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



[Bluetooth Manager] アイコン () はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN (WirelessLAN) と同時に使用する際の [注意] 画面が表示されます。

- 3 [OK] ボタンをクリックする
- 4 **(Fn) + (F8)** キーを押す
無線通信機能を選択する画面が表示されます。
- 5 **(F8)** キーを押し、カーソルを [Bluetooth 有効] に合わせる
(F8) キーを押すたびにカーソルが移動します。
- 6 **(Fn)** キーを離す

デバイス名の設定

自分のマシンに名前をつけます。他の機器で検出されたときに、ここで設定した名前が表示されます。一度設定した名前を使用するときは、この操作は必要ありません。

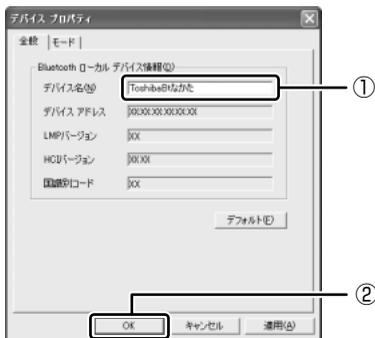
- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [デバイスプロパティ] をクリックする



[デバイスプロパティ] 画面が表示されます。

3 [デバイス名] に名前を入力し①、[OK] ボタンをクリックする②

ここでは、名前を「ToshibaBluetooth」と入力しています。



デバイス名が設定されます。

Bluetooth Service Center の起動

「Bluetooth Service Center」は、Bluetooth サービス（Bluetoothでの通信の種類）を統合的に管理するユーティリティです。「Bluetooth Service Center」で、他の Bluetooth 対応機器との通信に関する操作を行います。

1 Bluetooth 通信が可能な状態にする

2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () をダブルクリックする

「Bluetooth Service Center」が起動します。

【Bluetooth サービスセンター】画面】

メニューバー
各メニューをクリックしてさらに細かい操作を選ぶことができます。

ユーザモードバー
ユーザモードの設定や切り替え、画面表示の切り替えに使用するボタンや、本製品の電波状態を表示します。

デバイスリストビュー
検出したBluetooth対応機器の名称・状態（ステータス）などを表示します。

ステータスバー
本製品の現在のモードを表示します。

サービスリストビュー
左のデバイスリストビューで選択したBluetooth対応機器のサービスを表示します。

ツールボタンバー

デバイスフィルタボタン
周囲のBluetooth対応機器の状況を表示します。

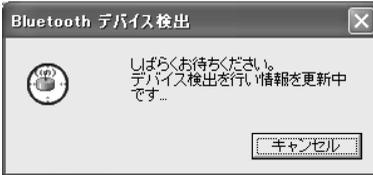
機能ボタン
メニューの中でよく使う操作がボタンで表示されています。

2 リモートデバイスを検出する

デバイスの検出を行うと、その時点で通信可能な他の Bluetooth 対応機器がわかります。通信相手となる他の Bluetooth 対応機器を「リモートデバイス」と呼びます。

1 [デバイス検出] ボタン () をクリックする

リモートデバイスの検出を開始します。



デバイスフィルタ欄が [リモートデバイス] に変わり①、検出されたリモートデバイスがデバイスリストビューに表示されます②。



検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。

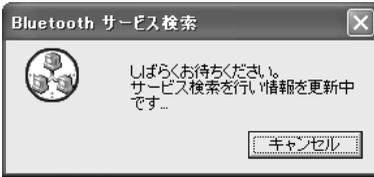
3 リモートデバイスのサービスを検索する

検出したデバイスが、どのようなサービス (Bluetooth での通信の種類) を実行できるのかを調べます。

1 目的のリモートデバイスをクリックし①、[サービス検索] ボタン () をクリックする②



リモートデバイスのサービスの検索を開始します。



サービスリストビューにリモートデバイスのサービスが表示されます。

検出の結果は、環境、リモートデバイスの状態によって異なります。



4 リンクを確立する

リンクの確立とは、お互いに目的のサービスをサポートしているかデバイスが確認し合うことです。リンクを確立すると、通信できるようになります。

- 1 接続するリモートデバイスの提供するサービスをクリックし①、【接続】ボタン () をクリックする②



リンクが確立すると、選択したリモートデバイスの [ステータス] が [接続] に変わり、サービスのアイコンが接続状態に変わります。



リモートデバイスと通信を行うことができます。

3 Bluetooth 通信を切断する

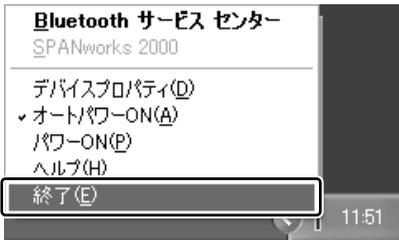
通信をやめるときは、次の操作を行います。

- 1 接続しているリモートデバイスのサービスアイコンをクリックし①、
[切断] ボタン () をクリックする②



4 Bluetooth 東芝ユーティリティを終了する

- 1 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックする
- 2 表示されたメニューから [終了] をクリックする



[Bluetooth Manager] 画面が表示されます。



- 3 メッセージを確認し、[はい] ボタンをクリックする

ヘルプの起動

【クイックスタートガイド】

『クイックスタートガイド』では、Bluetoothの基本的な使用方法について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Bluetooth 東芝ユーティリティ] → [クイックスタートガイド] をクリックする

【Bluetooth User's Guide】

『Bluetooth User's Guide』では、「Bluetooth 東芝ユーティリティ」について説明しています。

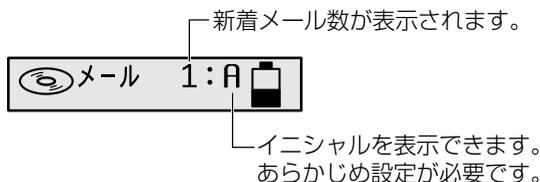
- 1 「Bluetooth Manager」を起動する
- 2 通知領域の [Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

▶ 「Bluetooth 東芝ユーティリティ」の問い合わせ
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

3 新着メールをモードパネルで確認する

メールソフトを起動しなくても、設定した日時に自動的に Windows を起動して新着メールが届いているかどうかチェックできます。これを新着メールチェック機能といいます。

新着メールが届いていると、モードパネルに新着メール数が表示されます。



新着メールチェック機能を使用するには、あらかじめ設定が必要です。

新着メールチェックを行うには、電話料金およびプロバイダへの接続料金がかかります。

【新着メールチェック機能を使用できる状態】

新着メールチェック機能を使用するときは、必ず AC アダプタを使用し、本製品と電話回線をモジュラーケーブルで接続してください。

新着メールチェック機能はパソコンが次の状態のときに使用できます。

- 電源が入っているとき
- スタンバイ機能を実行しているとき
- 休止状態のとき

スタンバイ機能を実行中や休止状態にしているときは、設定した時間にパソコンが自動的に起動し、新着メールをチェックします。

新着メールチェック機能は、メールソフトの設定が完了している場合に使用できます。

メールソフトの設定については、契約しているプロバイダからの資料を確認してください。

1 新着メールチェックの設定をする

新着メールチェック機能を使用するために必要な、各種設定について説明します。

1 Windowsログオンパスワードを設定する

新着メールチェック機能を設定するには、Windows のログオンパスワードの入力が必要です。あらかじめ Windows のログオンパスワードを設定しておいてください。



Windows のログオンパスワードについて

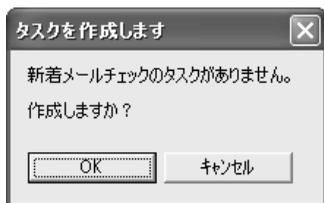
『基本をマスター 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

2 [メール]アイコンを通知領域に表示する(新着メールチェック機能を開始する)

新着メールチェック機能は、「メール着信ユーティリティ」で設定します。

「メール着信ユーティリティ」は次の手順で起動します。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする



この操作を初めて行った場合、「タスクを作成します」画面が表示されます。

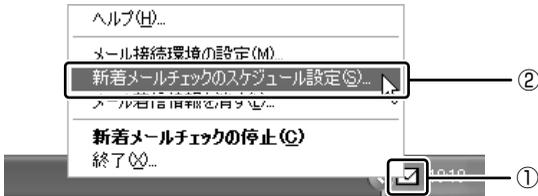
次の手順を行ってください。

- ① 表示される内容を確認して、[OK] ボタンをクリックする
[アカウント パスワードを設定してください] 画面が表示されます。
 - ② [パスワード] と [パスワード確認入力] の2カ所に、Windows のログオンパスワードを入力する
Windows のログオンパスワードを設定していない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして、「メール着信ユーティリティ」を終了してください。Windows のログオンパスワードを設定したうえで、もう1度「メール着信ユーティリティ」を起動してください。
 - ③ [OK] ボタンをクリックする
[新着メールチェックのスケジュール設定] 画面が表示されます。
- 3 [基本設定] タブで [実行する (指定された時刻に新着メールのチェックを行う)] をチェックする ()
 - 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
 - 5 [基本設定] タブで [コンピュータ起動時に常駐する] をチェックする ()
チェックしておくパソコン起動時に自動的に [メール] アイコン () が通知領域に表示され、新着メールチェック機能が開始できるので便利です。
 - 6 [OK] ボタンをクリックする
通知領域に [メール] アイコン () が表示されます。
続けて新着メールチェックのスケジュールを設定してください。

3 新着メールチェックのスケジュールを設定する

新着メールチェックを開始する日や時間を設定します。

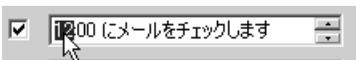
- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし①、表示されたメニューから [新着メールチェックのスケジュール設定] をクリックする②



- 2 [基本設定] タブで [スケジュール] を設定する



- ① [開始日] でチェックを開始する日を設定する
▼ ボタンを押すとカレンダーが表示されますので、開始したい日をクリックしてください。
- ② [継続日数] でチェックを続ける期間を設定する
最大 30 日まで設定できます。
- ③ 何時に新着メールチェックを行うか設定する
1 日に最大 3 回まで設定できます。チェックしたい回数だけチェックボックスをチェックします ()。
時間を設定するには、設定したい [時間] [分] にポインタをあわせてクリックします。数字が反転表示しますので、ボタンで設定します。



- 3 [詳細設定] タブで [タスクの実行時にスリープを解除する] と [レジューム後ハイバネーションする] をチェックする

スタンバイ機能を実行中、または休止状態のときに新着メールチェック機能を使用するときにチェックします。

[レジューム後ハイバネーションする] をチェックすると、新着メールチェック後に、自動的に休止状態になります。

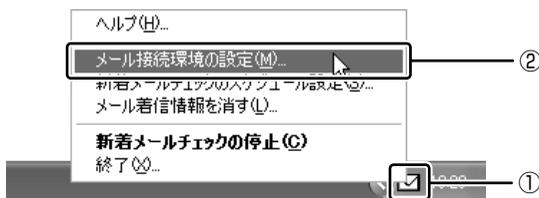
4 [OK] ボタンをクリックする

4 新着メールチェックの接続環境を設定する

初めて新着メールチェック機能を使用するときは、メールソフトの接続環境の設定が必要です。

新着メールチェック機能は新着メール数だけを確認できます。メールの内容を確認することはできません。メールの内容を確認するには、使用しているメールソフトで送受信を行う必要があります。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし①、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする②



- 2 [接続] タブで [POP3] をチェックし①、[設定] ボタンをクリックする②



- 3 必要な項目を入力する



プロバイダから指定されている [サーバ名] [ユーザ名] [パスワード] を入力してください。

- 4 [OK] ボタンをクリックする

- 5 [設定] 画面で [OK] ボタンをクリックする

5 モードパネルの設定

新着メールがあったときに、モードパネルに新着メール数が表示されるように設定します。

【新着モードパネルの設定メール数を表示する】

- 1 コントロールパネルを開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝コントロール] をクリックする
- 3 [モードパネル] タブの [表示モード] で、[新着メール情報を表示する] をチェックする ()



- 4 [OK] ボタンをクリックする

新着メールチェックが実行され、新着メールがあると、モードパネルに [メールXX] と表示されます。



【新着メール数とイニシャルを表示する】

モードパネルに新着メール数を表示するときに、イニシャルとして好きなアルファベット（大文字、小文字）半角1文字を追加して [メールXX:X] と表示させることができます。



新着メール数を表示する設定を行ったうえで設定してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [メール接続環境の設定] をクリックする

2 [着信時の表示] タブの [着信時の表示イニシャル] に、設定したいアルファベットを1文字入力する

設定できる文字は、アルファベットの大文字 (A ~ Z) または小文字 (a ~ z) のうち1文字です。半角で入力してください。



3 [OK] ボタンをクリックする

6 インターネットへの接続の設定

1 ACアダプタとモジュラーケーブルを接続する

2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

3 [インターネットオプション] をクリックする

[インターネットのプロパティ] 画面が表示されます。

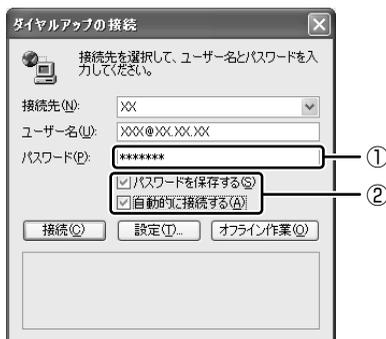
4 [接続] タブで [通常の接続でダイヤルする] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

5 Internet Explorer を起動する

参照 → Internet Explorer の起動方法
『基本をマスター 2章 1-① Internet Explorer の起動』

参照 → インターネット接続について
『まずはこれから インターネットに接続しよう』

- 6 [ダイヤルアップの接続] 画面で、[パスワード] にパスワードを入力し①、[パスワードを保存する] と [自動的に接続する] をチェックする② ()



7 [接続] ボタンをクリックする

1 度インターネットに接続して、設定を保存します。[キャンセル] ボタンや [閉じる] ボタン () をクリックすると設定は保存されません。インターネットに接続されると、[ダイヤルアップの接続] 画面が消えます。

8 インターネットへ接続を続ける必要がない場合、Internet Explorer の [閉じる] ボタン () をクリックする

9 [今すぐ切断する] をクリックする

インターネットへの接続が終了します。

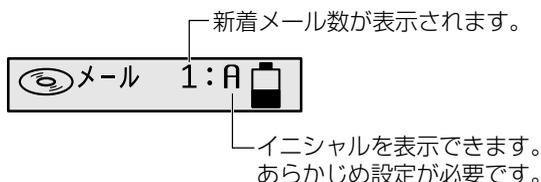
7 パソコンを起動せずに新着メールチェックをする

パソコンが起動していないときに、新着メールチェック機能を使うには、スタンバイを実行するか、休止状態にしてください。

参照 ▶ スタンバイの実行、休止状態について
「5 章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

2 新着メールを確認する

設定したスケジュールに従って、新着メールチェックが行われます。
新着メールがあると、モードパネルに新着メール件数が表示されます。



1 メール着信情報を消す

メールソフトを起動してメールの内容を確認した場合、新着メールをすべて既読にしてもモードパネルの新着メール件数の表示は消えません。この場合、次の方法で表示を消してください。

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [メール着信情報を消す] をクリックする
モードパネルの新着メール件数の表示が消えます。

3 新着メールチェックを停止する

1 新着メールチェック機能を一時停止する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの停止] をクリックする
アイコンが () に変わり、新着メールチェック機能を一時的に停止します。

2 新着メールチェック機能を再開する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [新着メールチェックの開始] をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
アイコンが () に変わり、設定したスケジュールに従って新着メールチェックを再開します。

3 新着メールチェック機能を終了する

- 1 通知領域の [メール] アイコン () を右クリックし、表示されるメニューから [終了] をクリックする
- 2 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

アイコンの表示が消えます。

この操作を行ったあと、再び新着メールチェック機能を使用したいときは、「本節 ①-2 [メール] アイコンを通知領域に表示する (新着メールチェック機能を開始する)」を確認してください。

4 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。
 - 分岐アダプタとは
1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
 - 回線切換器とは
1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年11月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用するすると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

1 設定方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

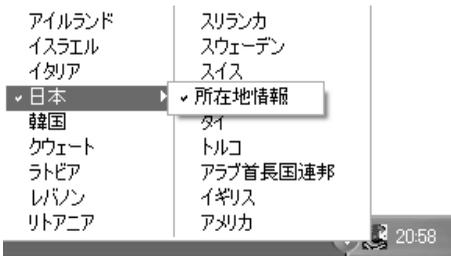
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () が通知領域に表示されます。



2 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]

[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

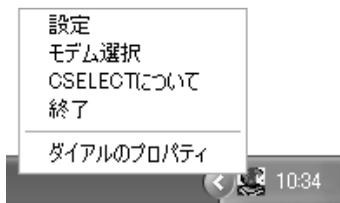
[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。

選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 通知領域の [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。プリンタやスキャナ、外付けハードディスクドライブ、PC カード、増設メモリなど本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 154
 - 2 マルチスタイルベイ機器を差し替える 156
 - 3 フロッピーディスクドライブを接続する 159
 - 4 PC カードを接続する 166
 - 5 USB 対応機器を接続する 169
 - 6 テレビを接続する 171
 - 7 CRT ディスプレイを接続する 176
 - 8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 177
 - 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する 179
 - 10 その他の機器を接続する 182
 - 11 メモリを増設する 186

1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ（本製品では同梱）
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ

 **参照** 周辺機器の接続場所について「1 章 1 各部の名前」

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

▶ **参照** 周辺機器の接続場所について「1章 1 各部の名前」

1 ドライバをインストールする

ほとんどの周辺機器は、はじめて使用するときにはドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

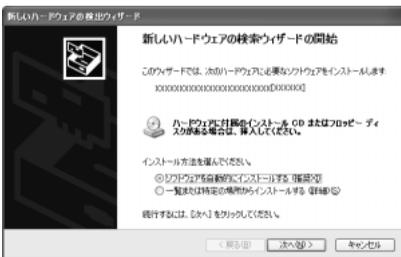
ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 マルチスタイルベイ機器を差し替える

1) マルチスタイルベイ機器について

購入時は、マルチスタイルベイに、ウェイトセーバが取り付けられています。マルチスタイルベイは、次の機器のいずれか 1 つに差し替えることができます。各マルチスタイルベイ機器の詳細については、『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

- DVD マルチドライブ (別売り)
DVD マルチドライブをもう 1 台使用することができます。
- 60GB ハードディスクユニット (別売り)
ハードディスク容量を増やすことができます。
- ブリッジメディアスロット (別売り)
スマートメディア、メモリースティック、コンパクトフラッシュを使用することができます。
- TV チューナ (同梱)
テレビアンテナやビデオデッキと接続し、テレビ番組をパソコン画面に表示したり、録画することができます。

注意

- マルチスタイルベイにはマルチスタイルベイ機器またはウェイトセーバのいずれかを取り付けてお使いください。
マルチスタイルベイの内部に異物やほこりが入ると、パソコン本体の火災・感電・故障の原因となります。また、内部に触れると感電のおそれがあります。
- マルチスタイルベイ機器には長い間使用していると熱を帯びるものがあります。
マルチスタイルベイ機器を取りはずす際にマルチスタイルベイ機器が熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからマルチスタイルベイ機器を取りはずしてください。

2) マルチスタイルベイ機器の差し替え

お願い

- 取りはずすときは、マルチスタイルベイ  LED が消灯していることを確認してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

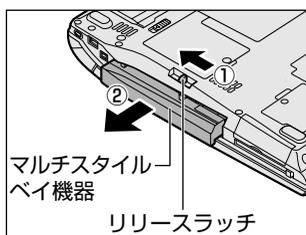
4 マルチスタイルベイ用のネジがロック解除の位置（奥側）になっていることを確認する

ロックの位置（手前側）になっている場合は、ロック解除の位置に付け替えてください。

参照▶ マルチスタイルベイ機器のロック

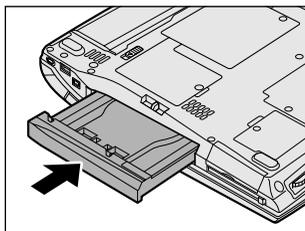
「本項 マルチスタイルベイ機器のロック」

5 マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドし①、マルチスタイルベイ機器を引き出す②



マルチスタイルベイ・リリースラッチをスライドさせた状態で、機器をしっかりつかんで水平に引き出してください。

6 マルチスタイルベイに取り付ける機器を裏返し、しっかり差し込む



カチッと音がして、マルチスタイルベイ・リリースラッチがかかるまで差し込んでください。

7 必要であればマルチスタイルベイ機器をロックする

メモ

通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン（）からマルチスタイルベイ機器の使用を停止し、取りはずすこともできます。詳しくは『マルチスタイルベイ機器に付属の説明書』を確認してください。

マルチスタイルベイ機器のロック

マルチスタイルベイ機器は、ネジでロックすることができます。購入時、ネジはロック解除の位置（奥側）にとめられています。必要に応じてネジをロックの位置（手前側）に付け替えてください。

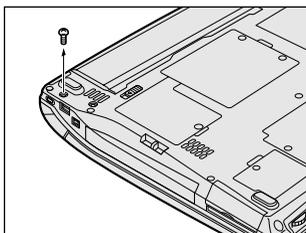
⚠ 警告

- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

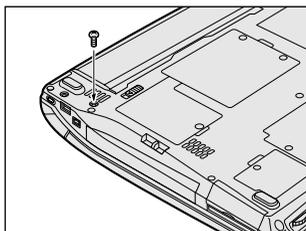
お願い

- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。

1 パソコン本体を裏返し、ネジをマルチスタイルベイのロック解除の位置（奥側）からはずす



2 手順1ではずしたネジをマルチスタイルベイのロック位置（手前側）にとめる



3 フロッピーディスクドライブを接続する

本製品では、同梱のUSB 接続タイプのフロッピーディスクドライブを使用できます。フロッピーディスクドライブを取り付けることにより、フロッピーディスクを使用して、データを保存したり、ほかのパソコンとデータをやり取りすることができます。

⚠ 注意

- パソコンがフロッピーディスクを読み書きしているとき（FDDのLEDが点灯しているとき）に電源を切ったり、USBケーブルを抜いたりイジェクトボタンを押したりしないでください。データやフロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。

お願い フロッピーディスクドライブの使用にあたって

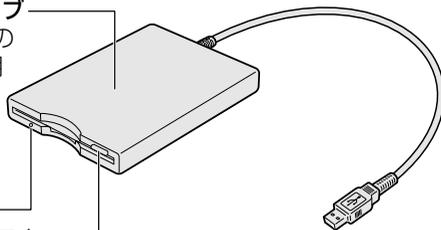
- フロッピーディスクドライブは、必ず水平に置いて使用してください。また、フロッピーディスクドライブの上にものを置いたり、無理な力を加えないでください（動作時も含む）。
データが消失したり、フロッピーディスク、フロッピーディスクドライブが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクドライブとパソコン本体を持ち運ぶときは、フロッピーディスクドライブをパソコン本体から取りはずしてください。また、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出してください。

1) フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクドライブについて説明します。同梱のフロッピーディスクドライブには、専用のドライバは必要ありません。本製品に取り付ければ使用できます。フロッピーディスクドライブの取り付け／取りはずしについては、「本章 5 USB 対応機器を接続する」を確認してください。

フロッピーディスクドライブ
3.5型の2HD、2DD形式のフロッピーディスクが使用できます。

FDD LED
点灯中は、フロッピーディスクにアクセスしていることを示します。



イジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すときに、このボタンを使用します。

役立つ 操作集

パソコンをフロッピーディスクから起動する場合

購入時の設定では、ハードディスクドライブからシステムを起動します。フロッピーディスクから起動したい場合、次の方法で変更できます。

【常にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする
- ③ [OSの起動] タブで [OSの起動] を [FDD] が最初になるように設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

【一時的にパソコンをフロッピーディスクから起動する場合】

- ① (F12) キーを押しながら、電源スイッチを押す
[起動ドライブ選択] 画面が表示されます。
- ② (←) または (→) キーで、フロッピーディスクのアイコン  を選択し、(Enter) キーを押す

2) フロッピーディスク

フロッピーディスクには、文書や表などのデータを保存することができます。

1 使用できるフロッピーディスク

本製品に同梱のフロッピーディスクドライブで使用できるフロッピーディスクには3種類あり、それぞれの機能は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量	読み出し/書き込み	フォーマット
2DDタイプ	720KB	可	不可
2HDタイプ	1.2MB	可	不可
2HDタイプ	1.44MB	可	可

 参照 フォーマットについて「本節 ③ フロッピーディスクを使う前に」

ソニー（株）製の3.5型フロッピーディスク（2DD / 2HD）を使用することを推奨します。

他のフロッピーディスクは、規格外などで使用できなかつたり、フロッピーディスクドライブの寿命を縮めたり、故障の原因となる場合があります。

2 フロッピーディスクの内容を確認する

1 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

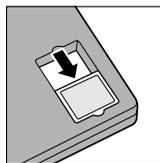
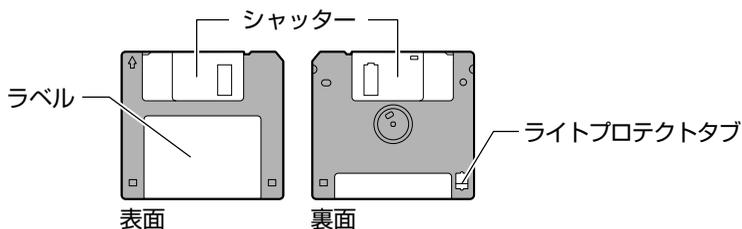
2 [3.5 インチ FD (A:)] をダブルクリックする

[3.5 インチ FD (A:)] 画面が開き、セットしたフロッピーディスクの内容が表示されます。

3) フロッピーディスクを使う前に

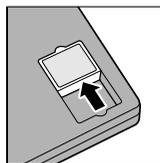
1 ライトプロテクトタブ

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを動かすことにより、誤ってデータを消さないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。この状態のフロッピーディスクは、データの書き込みはできず、読み取りしかできません。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りも可能です。

2 フォーマットとは

新品のフロッピーディスクは、使用するシステム（OS）にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、フロッピーディスクにトラック番号やヘッド番号などの起動するのに必要な基本情報を書き込み、フロッピーディスクを使えるようにすることです。

お願い

フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマットできるのは、2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクのみです。2HDタイプ（1.44MB）のフロッピーディスクであることを確認してからフォーマットしてください。

次のフロッピーディスクは、フォーマットしてから使用してください。

- フォーマットされていないもの
- Windows 以外のシステムでフォーマットされたもの

フォーマットには、「クイックフォーマット」と「MS-DOS の起動ディスクを作成する」というオプションがあります。必要に応じて設定してください。

オプションを何も設定しないでフォーマットを開始すると、通常のフォーマットが行われます。

すべてのファイルが消去され、基本情報が書き込まれます。ディスクの損傷があるかどうかもチェックされます。

【クイックフォーマット】

以前に Windows でフォーマットしたことのあるフロッピーディスクに実行できます。クイックフォーマットを行うと、すべてのファイルが消去されますが、基本情報の書き込みなどは行われません。フロッピーディスクが壊れているおそれのある場合は、クイックフォーマットは行わないでください。

【MS-DOS の起動ディスクを作成する】

フォーマットまたはクイックフォーマットを行った後、MS-DOS の起動ディスクとして必要な情報をフロッピーディスクに書き込みます。作成を行うと、ファイルや基本情報などのすべての情報が消去されます。

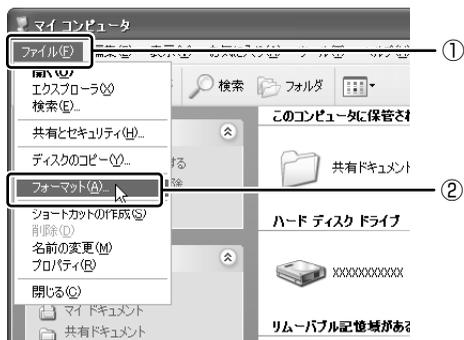
3 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

- 1 フロッピーディスクドライブに、フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする
[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。
- 3 [ 3.5 インチ FD (A:)] をクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの【ファイル】をクリックし①、表示されたメニューから【フォーマット】をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面が表示されます。

5 必要に応じて【フォーマットオプション】を設定し、【開始】ボタンをクリックする

クイックフォーマットを行う場合は、【クイックフォーマット】をチェックしてから、【開始】ボタンをクリックしてください。

メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。初めてフォーマットするフロッピーディスクの場合、多少時間がかかります。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

7 メッセージの内容を確認し、【OK】ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実行します。

フォーマットを終了する場合は、【フォーマット 3.5 インチ FD (A:)】画面で【閉じる】ボタン () をクリックしてください。

フロッピーディスクドライブの手入れ

市販のクリーニングディスクを使って、1ヶ月に1回を目安にクリーニングしてください。

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスクは消耗品です。傷がついた場合は交換してください。

フロッピーディスクを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- フロッピーディスクに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
フロッピーディスクに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめ了承してください。
- シャッター部を開けて磁性面を触らないでください。
汚れると使用できなくなります。
- スピーカなど強い磁気を発するものに近づけないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 直射日光に当てたり、高温のものに近づけないでください。
- 本やノートなど重いものを上に置かないでください。
- 使用場所、保管場所の温度は次のとおりです。

環境	使用時	保管時
温度	5～35℃	4～53℃

- ラベルは正しい位置に貼ってください。
貼り替えるときに重ね貼りをしないでください。
- ホコリの多い場所、タバコの煙が充満している場所に置かないでください。
- 保管の際は、プラスチックケースに入れてください。
- 食べ物、タバコ、消しゴムのカスなどの近くにフロッピーディスクを置かないでください。

4 PC カードを接続する

目的に合わせた^{ピーシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDN カード
 - ^{スキャー}SCSI カード
 - 無線 LAN カード
- * 本製品には同様の機能が搭載されています。
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1 PC カードを使う前に

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

注意

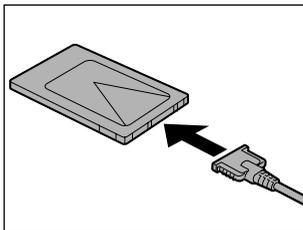
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2 PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

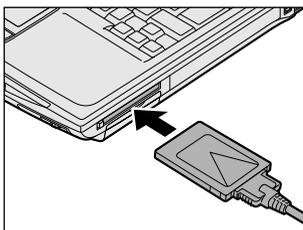
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているかシステムのデバイスマネージャなどで確認してください。

2 取りはずし

お願い

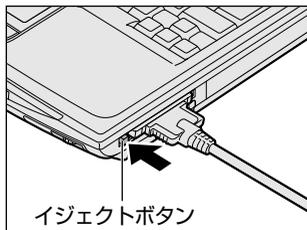
取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする

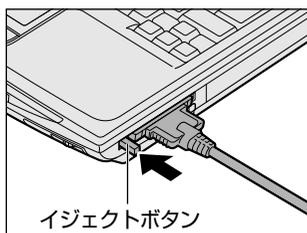
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



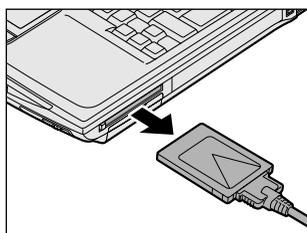
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くなっていないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

5 USB 対応機器を接続する

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- 同梱のフロッピーディスクドライブ
- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

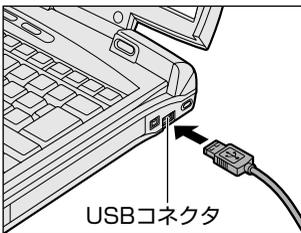
お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

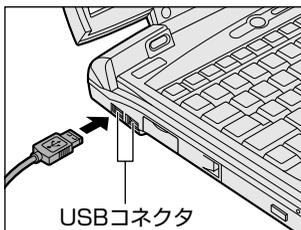
1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

【右側面】



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



2 USBケーブルのもう一方のプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

6 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

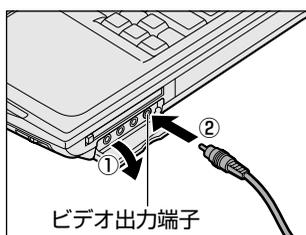
同梱のビデオケーブルを使用してください。同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使用すると、正しく表示されない場合があります。

本製品のビデオ出力端子は、LINE OUT 端子を兼ねています。

▶ 参照 LINE OUT 端子について 「本章 10-③ オーディオ機器」

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ミニジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）、映像端子（黄）をテレビの入力端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。

2 テレビに表示する

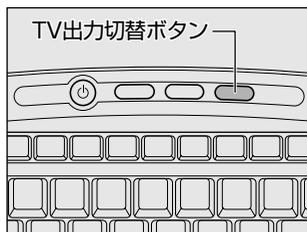
テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

【方法1—TV出力切替ボタンを使う】

TV出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



もう1度TV出力切替ボタンを押すと、内部液晶ディスプレイに表示が切り替わります。

【方法2—リモコンを使う】

リモコンの出力切替ボタンを押すと、表示装置がテレビに切り替わります。



【方法3—画面のプロパティで設定する】

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする
- 2 [ 画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする

4 [nView ディスプレイモード] タブで次のいずれかに設定する



● 内部液晶ディスプレイだけに表示

- ① [nView モード] で [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [デジタル ディスプレイ] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- ① [nView モード] で [クローン] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [ディスプレイ] で [nView ディスプレイ 2 : アナログディスプレイ] を選択する
- ③ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ④ [適用] ボタンをクリックする
- ⑤ もう 1 度 [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [詳細] を選択する
- ⑥ テレビの形式を選択する
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
- ⑦ [OK] ボタンをクリックする

● テレビだけに表示

- ① [nView] モードで [標準] をチェックし、[適用] ボタンをクリックする
- ② [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [出力デバイスの選択] → [TV] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

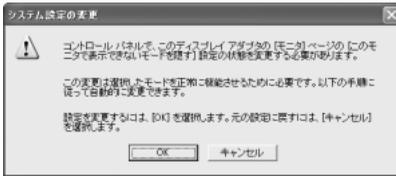
5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

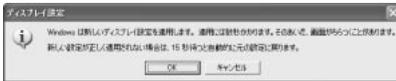
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【方法4ー (Fn) + (F5) キーを使う】

(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒間押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT CRTディスプレイだけに表示
内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

参照 → CRTディスプレイについて「本章 7 CRTディスプレイを接続する」

3 取りはずし

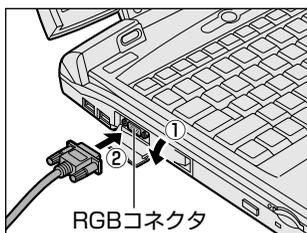
- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

7 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

- 1 左側面のコネクタカバーを開き①、CRT ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

【切り替え方法】

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 3」や「方法 4」を参考にしてください。「方法 3」を参考にする場合は、[nView ディスプレイモード] タブの [デバイス設定] で「アナログ ディスプレイ」を選択してください。

▶ 参照 ▶ テレビ表示について「本章 6-2 テレビに表示する」

3 表示について

CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

▶ 参照 ▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

8 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイリフレイイチサンキョーコン
i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ

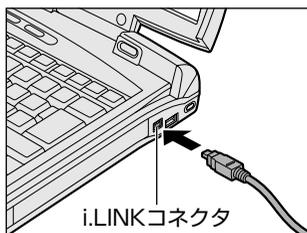
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、《サイバーサポート》を確認してください。

1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

* 機種によっては接続できません。

9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD プレーヤ
- MD コンポ
- 光入力スピーカ
- DAT プレーヤ
- 光入力付きアンプ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

 参照 ヘッドホン出力端子への接続について 「本章 10-② ヘッドホン」

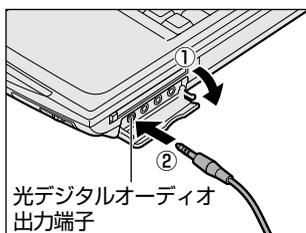
お願い 操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。
したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が48kHzに固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1 回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。
- Windows を起動せずにオーディオ／アプリケーションボタンやリモコンで音楽CDを操作しているときは、パソコン本体の電源が入っていません。
その場合は、光デジタルオーディオ出力端子から光データは出力されません。
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」のDVDを再生した場合、著作権保護機能（SCMSに準拠）を持つプレーヤでCDや音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。

SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム) とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽 CD から MD に録音することはできますが、録音した MD からさらに他の MD に録音することはできません。

1 取り付け

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む②



プラグの形状を確認して差し込んでください。

- 2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器 (MD コンポなど) への録音方法について説明します。

- 1 光デジタル対応機器の電源を入れる
- 2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする
詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。
- 3 パソコンで録音したい音楽などを再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどのプレーヤで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル (AVI / MPG)、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合

光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能がない場合は、光デジタル対応機器側で録音を開始し、パソコン側で音楽などの再生を開始してください。

シンクロ録音機能を使用する場合は、[コントロールパネル] → [関連項目] の [コントロールパネルのその他のオプション] → [ヤマハ AC-XG] をクリックし、[デジタル出力] タブで [オン (デジタルソースのみ)] をチェックしてください。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

10 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1) マイクロホン

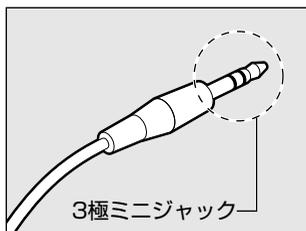
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品では、モノラル録音のみできます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

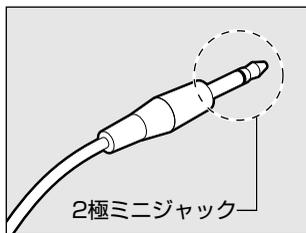
 サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



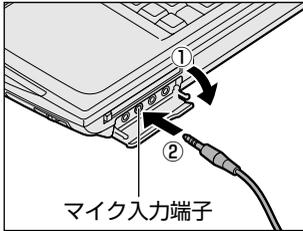
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

 アプリケーションの問い合わせ先について
『困ったときは 付録 1 アプリケーションの問い合わせ先』

2 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む②



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

2) ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる / 切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け / 取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

▶ 参照 サウンド機能について「1章 8 サウンド機能」

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。

マスタ音量は、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

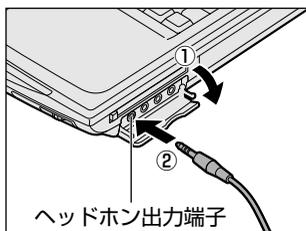
本製品のヘッドホン出力端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

▶ 参照 光デジタルオーディオ出力端子について

「本章 9 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を接続する」

1 接続

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む②



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

3 オーディオ機器

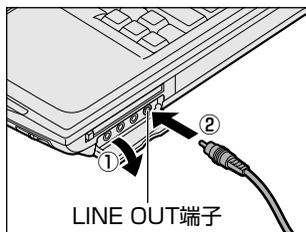
LINE OUT 端子と LINE IN 端子には、オーディオ機器を接続できます。
本製品の LINE OUT 端子は、ビデオ出力端子を兼ねています。

参照▶▶ ビデオ出力端子について「本章 6 テレビを接続する」

1 LINE OUT 端子への接続

同梱のビデオケーブルをオーディオケーブルとして使用してください。
同梱のビデオケーブル以外のケーブルを使った場合、正常に信号が出力されません。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグをパソコン本体の LINE OUT 端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

取りはずすときは、LINE OUT 端子からビデオケーブルのプラグを引き抜きます。

- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器の LINE IN 端子に差し込む

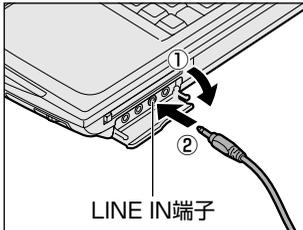
ビデオケーブルの音声端子（赤：音声右、白：音声左）をオーディオ機器の LINE OUT 端子側で対応している端子にそれぞれ接続してください。
ビデオケーブルの映像端子（黄）は使用しません。

2 LINE IN端子への接続

市販のオーディオケーブルを使用してください。

オーディオケーブルのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

- 1 右側面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグをパソコン本体のLINE IN端子に差し込む②



コネクタの形状を確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグをオーディオ機器のLINE OUT端子に差し込む

11 メモリを増設する

本製品には2つの増設メモリスロット（スロット0とスロット1）があり、増設メモリスロット1つにつき512MBまでの増設メモリを取り付けることができます。本製品は、スロット0とスロット1にそれぞれ256MBのメモリが標準で取り付けられています。別売りの増設メモリを購入時のメモリと交換することで容量を増やすことができます。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。
電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

お願い

- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分だけではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはすす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- 取りはずしたネジは紛失しないように注意してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

【エラーメッセージについて】

仕様に合わない増設メモリを取り付けると、モードパネルにメッセージが表示されます。また、パソコンは起動しません。

エラーメッセージ

モードパネルに次のように表示されます。左側がスロット0のエラーメッセージ、右側がスロット1のエラーメッセージです。

MEM0 Error

MEM1 Error

1 取りはずし

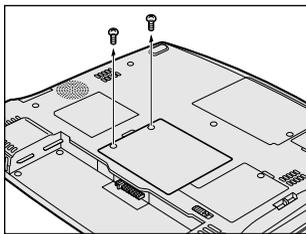
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

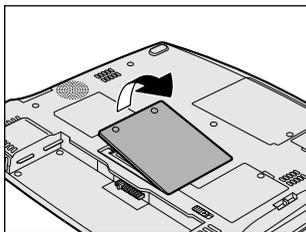
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

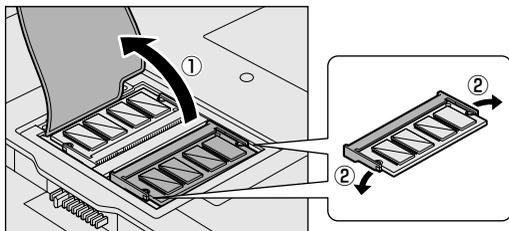
- 4 増設メモ리카バーのネジ 2 本をはずす



- 5 増設メモ리카バーをはずす



- 6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめくって①、フックを解除する②

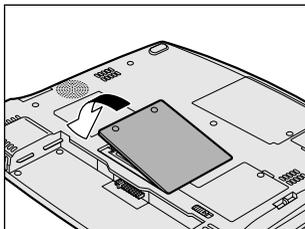


熱くないことを確認してから行ってください。

7 増設メモリをパソコン本体から取りはずす

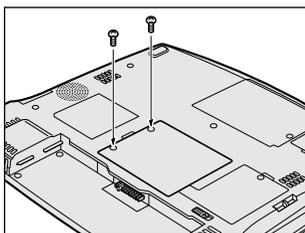
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

8 増設メモリカバーをはめる



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

9 手順4ではずしたネジ2本でとめる



10 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け [5章 1-③ バッテリーパックを交換する]

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

2 取り付け

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた [『まずはこれから 電源を切る／入れる』]

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類ははずす

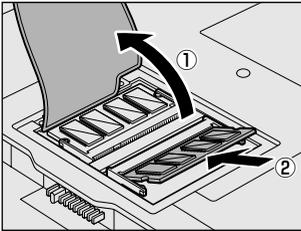
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 バッテリーパックの取りはずし [5章 1-③ バッテリーパックを交換する]

4 増設メモリカバーのネジ2本をははずす

5 増設メモリカバーをははずす

6 インシュレータ（ビニールのカバー）をめぐって①、増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに差し込む②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 コネクタ部を支点として、メモリを下に押す

8 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

9 手順4ではずしたネジ2本でとめる

10 バッテリーパックを取り付ける

参照 ▶ バッテリーパックの取り付け「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 ▶ メモリ容量の確認について「本節 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

参照 ▶ 「東芝 PC 診断ツール」について

『困ったときは 1 章 3-① パソコンの情報を見る／状態を診断する』

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 192
 - 2 省電力の設定をする 200
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 206

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

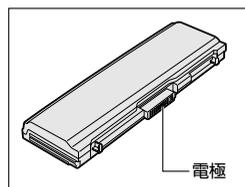
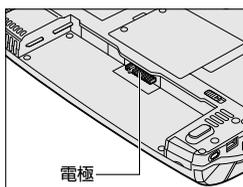
『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 警告

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS025)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電してください。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

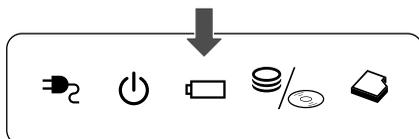


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



Battery LEDは次の状態を示しています。

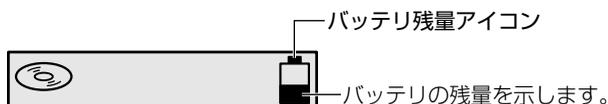
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリー異常

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。

参照 → バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」

2 モードパネルで確認する

モードパネルに表示されたバッテリー残量アイコンで、バッテリーの状態を確認できます。



バッテリー充電量の状態にあわせて、バッテリー残量アイコンは5段階に表示が変わります。

バッテリー残量アイコンが  のときは、フル充電状態です。

バッテリー残量アイコンが  のときは、すぐに充電が必要な状態です。

バッテリー残量アイコンの残量表示は、概算によるものです。パソコンの使用状況によっては、実際の残量と異なることがあります。

3 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

通知領域の [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



 参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 再充電の方法について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力ユーティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が点灯)	10 時間以上
電源 OFF (Power  LED が消灯)	ほとんど充電しない

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらず充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【 充電完了までの時間 】

状態	充電時間
電源 ON	約 6.2 時間以上
電源 OFF	約 3.0 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【 使用できる時間 】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	動作時間
JEITA 測定法 1.0	約 3.1 時間

【 使っていないときの充電保持時間 】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約 18 日間

2 バッテリーを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
 - 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
 - 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
- その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする **参照**▶ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
- **参照**▶ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する **参照**▶ 「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

お願い

- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

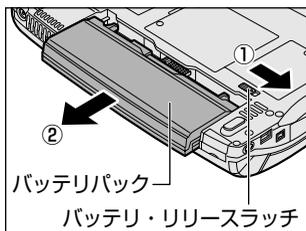
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

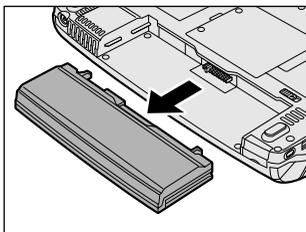
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを引く②

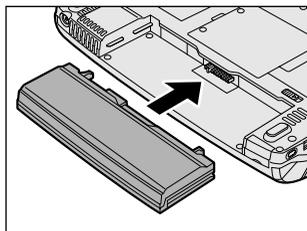


ゆっくり引いてください。

5 バッテリーパックを取り出す

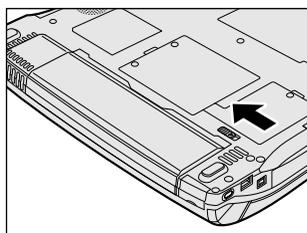


6 バッテリーパックを静かに差し込む



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。

7 バッテリーパックを固定する



バッテリー・リリースラッチが自動的にスライドして、カチッという音がします。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

1 東芝省電力ユーティリティ

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 東芝省電力ユーティリティの起動方法

1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする

2 [東芝省電力] をクリックする

[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。



[電源に接続] [バッテリーを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続]（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリー使用中]（バッテリー駆動で使用する時）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている 6 つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコン () が通知領域に表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーにCPU周波数の状態を表示する】

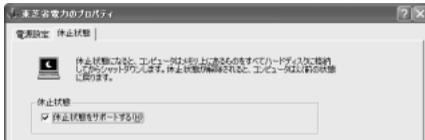
[タスクバーにIntel(R) SpeedStep(TM) Technologyの状態を表示する] をチェックする () と現在のCPU周波数の状態を示すアイコン () が通知領域に表示されます。

CPU周波数アイコンをクリックすると、CPU周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。

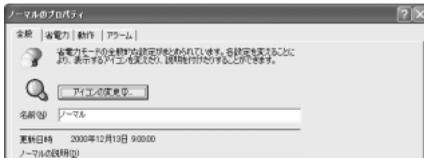


▶ 休止状態について「本項 4- [動作] タブ」

4 省電力モードの詳細設定

1 [2]の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

お願い

- 次のような場合はスタンバイが無効になり、保存されていないデータは消失します。
 - ・ 誤った使いかたをしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
 - ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき
- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。HDD/CD-ROM  LEDが点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、保存されていないデータは消失します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【入力を求める】

[終了オプション] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

自動的にスタンバイが実行されるとき

購入時の設定のまま、ACアダプタを電源に接続して30分以上放置した場合、システムはスタンバイを実行します。

この場合、スタンバイからの復帰時に、ネットワーク関係のアプリケーションが正常に動作しないことがあります。その場合は、もう1度ネットワークにログインし直してください。「東芝省電力キューティリティ」でスタンバイを無効に設定しておく、自動的にスタンバイが実行されることはありません。

ただし、設定を変更すると国際エネルギースタープログラム規格の基準を満たせなくなります。

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（「東芝省電力」 - 「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

【電源オフ】

Windowsを終了して電源を切ります。

「スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める」をチェックする（）と、Windowsのパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindowsパスワードの入力が必要になります。

【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

「アラーム」タブは「電源設定」タブで「バッテリーを使用中」に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

5 複数ユーザで使用する場合

「東芝省電力ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のみが使用できます。設定内容は各ユーザごとに保存されます。

参照 → 複数のユーザで使用する場合
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。スタンバイまたは休止状態を実行するには、あらかじめ設定しておく必要があります。

参照 ▶ スタンバイ、休止状態について「本章 2 省電力の設定をする」

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリおよび周辺機器の取り付け／取りはずしは行わないでください。また、「東芝モバイルエクステンション」の「ウォームドocking／アンドockingをサポートする」のチェックをはずした場合は、マルチスタイルベイ機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【方法1ー [スタート] メニューから実行する】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする

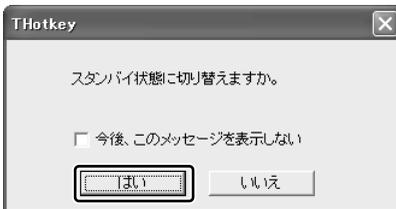


メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

【方法2ー (Fn) + (F3) キーを使う】

- 1 (Fn) + (F3) キーを押す
- 2 [[はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [[はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

購入時の設定では、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【方法1— [スタート] メニューから実行する】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

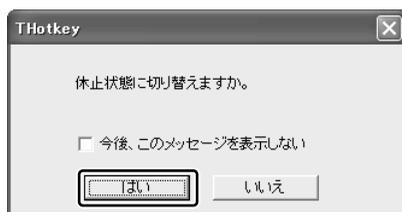
【方法2- (Fn) + (F4) キーを使う】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 (Fn) + (F4) キーを押す

3 [はい] ボタンをクリックする



[今後、このメッセージを表示しない] をチェック () して [はい] ボタンをクリックすると、次回からこの画面は表示されません。

Power  LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

3 簡単に電源を切る / パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る (電源オフ)、またはスタンバイ / 休止状態にすることができます。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [何もしない] [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

設定した状態へ移行します。

手順 1 の④で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを使う前に 212
 - 2 アプリケーションを追加（インストール）する 214
 - 3 アプリケーションを削除（アンインストール）する 215

1 アプリケーションを使う前に

本製品にはさまざまなアプリケーションが用意されています。

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中には、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

▶ 複数のユーザで使用する場合について
『基本をマスター 4 章 2 複数のユーザで使用する』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
簡単インターネット	○*1		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
内蔵モデム用 地域選択ユーティリティ		○		○*2
ネットワークデバイス スイッチ		○		○*2
東芝コントロール (メール着信機能)	○		○	
東芝コントロール (ボタン機能)		○	○	
東芝コントロール (モードパネル)		○		
Drag'n Drop CD	○		○*3	○
携帯電話 6in	○			○
家庭の医学	○		○	○
LaLaVoice	○*4		○	○
デジカメ Walker (Ulead iPhoto Express)		○		
MotionDV STUDIO		○		○*2
DVDfunSTUDIO		○		
DVD-MovieAlbum		○		
InterVideo WinDVD	○			○
プロアトラス W for TOSHIBA		○	○	○*2
駅すばあと	○		○	
筆ぐるめ		○		○*2

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
Norton Internet Security 2002	○		○	○
東芝 PC 診断ツール		○		○ * 2
東芝 HW セットアップ	○			— * 5
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— * 5
Fn-esse	○		○	○
Bluetooth 東芝ユーティリティ		○		○ * 2
いきなりインターネット (infoPepper)		○ * 6		○ * 2
AOL	○			○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ * 2
OCN サインアップ		○		
@nifty でインターネット		○		○ * 2
ODN ダイアルアップ スターターキット	○		○ * 6	○
DreamNet		○	○	
BIGLOBE サインアップナビ	○			○
TTNet	○		○	○

- * 1 制限付きアカウントはダイヤル方式の設定はできません。
- * 2 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータの管理者のみです。
- * 3 DVD-R、CD-R などへの書き込みは、複数のユーザが同時に行うことはできません。
- * 4 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。
- * 5 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。
- * 6 [ユーザアカウント] のオプションにて [ユーザの簡易切り替えを使用する] を設定している場合のみ、可能です。

2 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。

お願い

- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

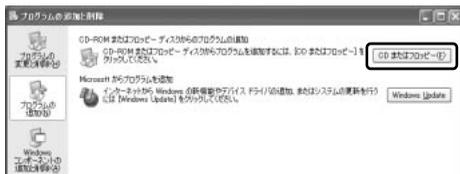
アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者で行います。

ここでは【プログラムの追加と削除】からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で【プログラムの追加と削除】を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMをセットする
- 2 【コントロールパネル】を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 【プログラムの追加】 ボタン () をクリックする
- 4 【CDまたはフロッピー】 ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

3 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でもアプリケーションCD-ROMから、再インストールして使用することができます。

参照 ➔ 再インストールについて
『困ったときは 4章 3 アプリケーションを再インストールする』

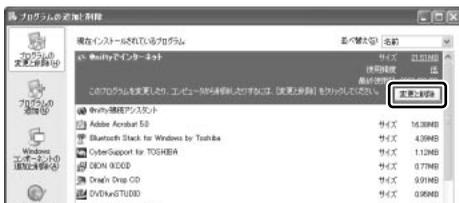
アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者で行います。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



表示されるメッセージに従って操作してください。

7 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 218
 - 2 東芝HW セットアップを使う 219

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティを使用します。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」、「東芝コントロール」などがあります。

 「東芝省電力ユーティリティ」について「5 章 2 省電力の設定をする」

 「東芝コントロール」について
「1 章 3-4 東芝コントロールで設定する」

本章では、「東芝 HW セットアップ」について説明します。

2 東芝 HW セットアップを使う

「東芝 HW セットアップ」を使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。

パスワード、OSの起動、LAN機能などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 東芝 HW セットアップの起動と使用

「東芝 HW セットアップ」の操作について、説明します。

1 起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 2 [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 使用方法

■ [全般] タブ ■

セットアッププログラムのバージョンと日付などを表示します。



【標準設定】

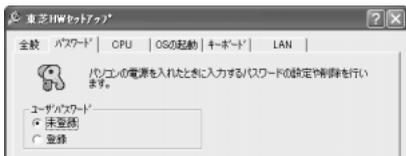
このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」の [パスワード] タブ以外のタブの項目が購入時の設定状態に戻ります。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、「東芝 HW セットアップ」のバージョン情報を表示します。

■ [パスワード] タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するパスワードの登録や削除を行います。



【パスワードの登録】

- ① [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「***** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・全角文字 (2バイト文字)・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など・単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など・¥ (エン) [¥] キーや [る] キーを押すと ¥ が入力されます。	

- ③ [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

登録したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。

【パスワードの削除】

- ① [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- ② [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録してあるパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- ③ 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

手順②でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

【キーフロッピーディスクの作成】

キーフロッピーディスクとは、パスワードを忘れた場合に使用するフロッピーディスクのことです。キーフロッピーディスクを使用すると、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD(1.44MB)フロッピーディスクが必要です。あらかじめ用意してください。

キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよく確認してから、使用してください。

次のように操作して、キーフロッピーディスクを作成します。

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『まずはこれから 電源を切る／入れる』

2 フロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能なフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

モードパネルに「Password =」と表示されます。

4 パスワードを入力する

5 (Tab)キーを押す

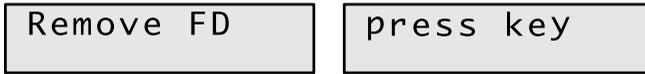
モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。

Insert FD

Ready (Y/N)

6 ①キーを押す

モードパネルに次のメッセージが交互に表示されます。



7 フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを抜いてから、何かキーを押す

画面にメッセージが表示され、Windows が起動します。

【パスワードを忘れてしまった場合】

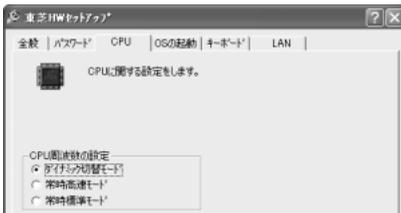
キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。また、そのとき身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password =」 と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)** キーを押す
パスワードが解除され、システムが起動します。

■ [CPU] タブ ■

CPU の操作について設定します。



【 CPU 周波数の設定 】

CPU 周波数を、「ダイナミック切替モード」、「常時高速モード」、「常時標準モード」のいずれかから選択できます。

■ 【OSの起動】 タブ ■

パソコンの起動について設定します。



【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

[CD-ROM] は内蔵の DVD-RAM ドライブをさします。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

起動するハードディスクの順番を選択します。

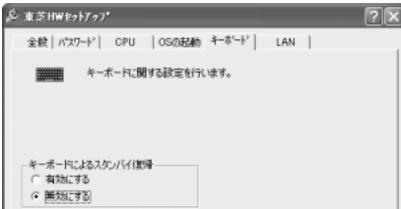
[増設 HDD] はマルチスタイルベイに取り付けた 60GB ハードディスクユニット (別売り) をさします。市販の外付型ハードディスクドライブからの起動はサポートしていません。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークを使ってリモートブートする際のプロトコルを選択します。

■ 【キーボード】 タブ ■

スタンバイ状態からの復帰方法について設定します。



【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。



【 LANのウェイクアップ 】

LANのウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LANのウェイクアップ機能を使用する場合は、必ずACアダプタを接続してください。

【 内蔵LAN 】

内蔵LANを使用するかどうかを設定します。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

- 1 [東芝HWセットアップ] を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 226
 - 2 各インタフェースの仕様 235
 - 3 技術基準適合について 239
 - 4 無線LANについて 251
 - 5 Bluetoothについて 258

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種		DynaBook G6シリーズ		
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照		
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b		
	RAM	東芝PC診断ツールを参照		
	ビデオRAM	標準グラフィックス用装備 (32MB)		
表示機能	表示装置	15.0型TFT方式カラー液晶ディスプレイ		
	グラフィック表示	横1600 x 縦1200 1画面		
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)		
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵 (ジョグホイール付き)		
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備		
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵		
	DVDマルチドライブ		1台内蔵 CD-ROM : 最大24倍速 CD-R 書き込み : 最大16倍速 読み込み : 最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き込み : 最大4倍速 読み込み : 最大12倍速 High-Speed対応CD-RW 書き込み : 最大8倍速 読み込み : 最大12倍速 DVD-ROM : 最大8倍速 DVD-R 書き込み : 等倍速 読み込み : 最大4倍速 DVD-RW 書き込み : 等倍速 読み込み : 最大4倍速 DVD-RAM 書き込み : 2倍速 読み込み : 最大2倍速 8cm、12cmのCD、DVD対応 マルチセッション	
		3.5型フロッピーディスクドライブ		外付けUSB接続 2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用 1.44MB、1.2MB (2HD) / 720KB (2DD)
マルチスタイルベイ*		1個装備		
インタフェース	RGB	1個装備		
	USB	3個装備		
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)		
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 1) CardBus対応		

インタ フェース	サウンド	ライン出力 (ビデオ出力共用) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) *2 ライン入力 ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン 光オーディオ出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ出力 *2	ビデオ出力 (ライン出力共用) 1個装備 (φ3.5mmミニジャック)
通信機能	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	モデム	1個装備
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11b準拠 (11Mbpsまで対応)
	Bluetooth	1個装備 Bluetooth Specification Ver.1.1準拠
	赤外線	1ポート装備 IrDA1.1準拠 リモコン
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V~240V (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/6,300mAh
最大消費電力		75W
使用環境条件		温度：5℃~35℃ 湿度：20%~80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		334 (幅) x 305.8 (奥行) x 38.2/55.2 (高さ) mm
質量		約3.6kg (ウエイトセーバ取り付け時)

* 1 別売りのマルチスタイルベイ機器をいずれか 1 つ取り付けて使用できます。

* 2 同梱のビデオケーブルを使用してください。

【東芝 PC 診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

表示される内容は、「東芝PC診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、「東芝PC診断ツール」を起動し直すと変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数(固定値)が表示され、これはクーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、アメリカ合衆国、カナダ、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、別途電源コードを購入してください。

使用できる電圧(AC)は次のとおりです。

アメリカ合衆国	: 125V
カナダ	: 125V
日本	: 100V

日本では必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

*取得規格は、アメリカ合衆国:UL規格、カナダ:CSA、日本:電気用品安全法です。

【ACアダプタの仕様】

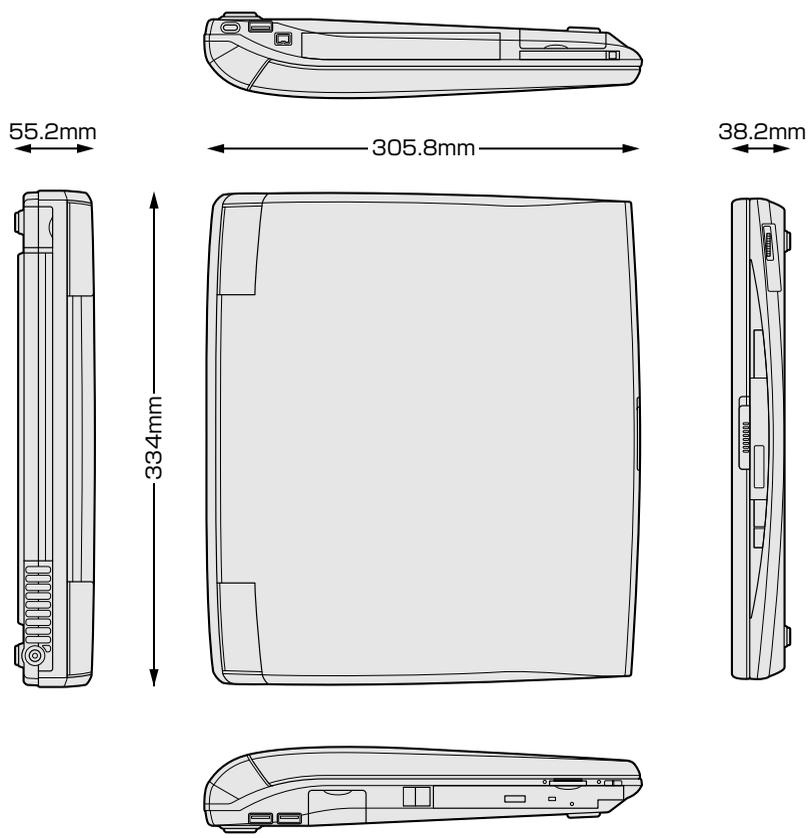
本製品に同梱されているACアダプタは、海外でも使用できます。

ACアダプタの仕様は次のとおりです。

入力	: AC100V ~ 240V、1.2A ~ 0.6A、50/60Hz
出力	: 15V、5A

2 外形寸法図

* 数値は突起部を含みません。



付録

3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 → 表示可能色数の詳細について「1章 6-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6	グラフィックス	640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	70
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	70
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	60
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRT リフレッシュレート	
—	SVGA グラフィックス	800 x 600	—	256/256K	60/75/85/100	
—		1024 x 768	—			
—		1280 x 1024	—			
—		1600 x 1200	—			
—		1920 x 1440 *1	—			60/75/85
—		2048 x 1536 *1	—			60
—		800 x 600	—	64K/64K	60/75/85/100	
—		1024 x 768	—			
—		1280 x 1024	—			
—		1600 x 1200	—			
—		1920 x 1440 *1	—			60/75/85
—		2048 x 1536 *1	—			60
—		800 x 600	—	16M/16M	60/75/85/100	
—		1024 x 768	—			
—		1280 x 1024	—			
—		1600 x 1200	—			
—		1920 x 1440 *1	—			60/75
—		2048 x 1536 *1	—			60

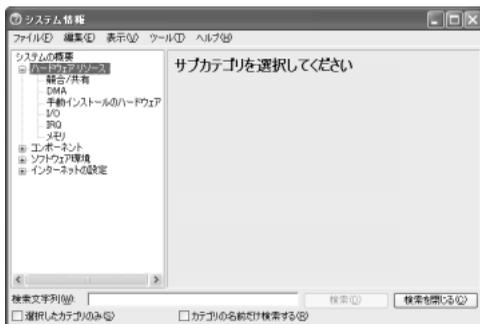
*1) LCDに表示する場合は、実際の画面（1600 × 1200）内に、仮想スクリーン表示します。
注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/Oポートマップ、IRQ使用リソース、DMA使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 3 調べたい項目をクリックする



メモリマップ : [メモリ]
I/Oポートマップ : [I/O]
IRQ使用リソース : [IRQ]
DMA使用リソース : [DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときはやけどするおそれがありますのでモデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。
電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的で内蔵モデムカバーを開けないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【取り付け】

- ① データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ モデムカバーのネジ1本を取りはずす
- ⑤ モデムカバーをはずす

-
- ⑥ 接続コードをモデムボードに取り付ける
 - ⑦ モデムボードを固定用の2本のネジでパソコン本体に取り付ける
 - ⑧ モデムカバーをはめ、手順4ではずしたネジ1本でとめる
 - ⑨ バッテリーパックを取り付ける

【取りはずし】

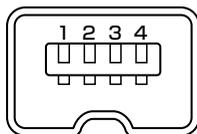
- ① データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ モデムカバーのネジ1本を取りはずす
モデムカバーをはずします。
- ⑤ モデムボードを固定しているネジ2本を取りはずす
ネジはなくさないように大切に保管しておいてください。
- ⑥ モデムボードをパソコン本体から取りはずす
- ⑦ 接続コードをモデムボードから取りはずす
- ⑧ モデムカバーをはめ、手順4ではずしたネジ1本でとめる

2 各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストロープ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストロープ送信 (2対の差動信号)	

コネクタ図



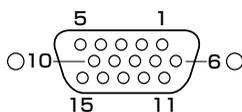
信号方向 (1) : パソコン本体への入力
信号方向 (0) : パソコン本体からの出力

付録

2 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	ID2	モニタID2	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	IDO	モニタID	
12	SDA	SDA通信信号	
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	

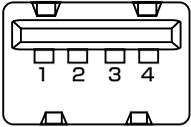
コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

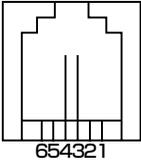
信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向（1）：パソコン本体への入力
 信号方向（0）：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

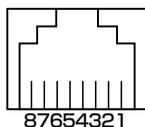
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (1)：パソコン本体への入力
信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 参照 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : DynaBook G6 series

Model number : PS520

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port, IEEE1394 port, and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PS520* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2002年11月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1 **NOTICE** : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

松下 DVD-RAM ドライブ UJ-810B (DVD マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE.
EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

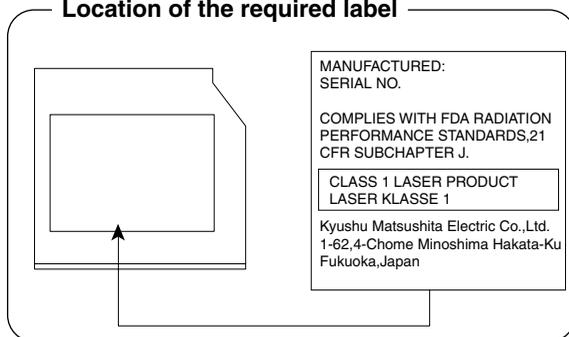
VARNING

SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



4 無線 LAN について

1 物理仕様

パワーセーブ（ドーズ）モード	45mA
受信モード	250mA
送信モード	350mA
供給電源	3.3V

2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)			
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High、Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)			
拡散方式	11チップバーカーシーケンス			
ビットエラーレート (BER)	10 ⁻⁵ 以上			
定格出力	15 dBm			
転送レート	High Speed 11 Mb/s	Medium Speed 5.5 Mb/s	Standard Speed 2 Mb/s	Low Speed 1 Mb/s
受信感度	-83 dBm	-87 dBm	-91 dBm	-94 dBm
拡散遅延 (FER 1%未満)	65 ns	225 ns	400 ns	500 ns

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。各国で適用される無線規制については、「本節 6 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

* 1：購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN のチャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- " ピア・ツー・ピア " モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

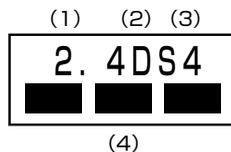
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
 (2) DS : 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
 (3) 4 : 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
 (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（祝日、12/31～1/3を除く）
 ナビダイヤル / 0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名： MPC13A-20/R

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1128JP
財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1088

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers(米国電気電子技術者協会) 策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B) (無線 LAN 標準規格(版数 B))
- WECA (Wireless Ethernet Compatibility Alliance) の定義する Wireless Fidelity (WiFi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Wireless LAN 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

東芝 Wireless LAN 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

東芝 Wireless LAN Mini PCI Card のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248H-DPA3171U

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

- EN 60950 Safety of Information Technology equipment
- ETS 300 328 Technical requirements for radio equipment
- ETS 300 826 General EMC requirements for radio equipment.

België/	For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed.
Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisé sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA. The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

● Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

5 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver. 1.1
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	最大通信速度	約720kbps (非対称型通信時) 約430kbps (対称型通信時)
	出力 *1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度 *1	-70dBm
	通信距離	見通し10m *2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節5 ユーザに対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

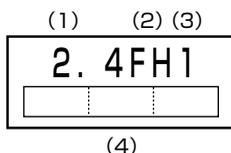
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをPC本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が 10m 以下であることを示す。
- (4)  : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（祝日、12/31～1/3を除く）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認定表示について

本製品は、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYTF2SSBX

財団法人 電気通信端末機器審査協会 認証番号 D01-1058JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター 認証番号 01NYDA1071

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 ユーザに対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.1.1
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

〈ご注意〉

- 本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。
ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version 1.1 仕様に準拠しております。
Bluetooth™ Version 1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
- (3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Approval Number : 248104465A

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution

Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits.

Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.

In order to comply with FCC radio-frequency radiation exposure guidelines for an uncontrolled environment, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA has to be operated while maintaining a minimum body to antenna which are located on top of LCD distance of 20 cm.

Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, it is advised to use the Bluetooth™ Card from TOSHIBA in such a manner that human contact during normal operation is minimized.

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

さくいん

記号

 キーを使ったショートカットキー ... 37

A

AC アダプタの仕様 20
Alt キー 32, 33
Arrow Mode LED 33, 34

B

BackSpace キー 33
Battery LED 21, 193
Bluetooth Manager 132
Bluetooth Service Center 134
Bluetooth SIG 130
Bluetooth 機能を使う 129
Bluetooth 東芝ユーティリティ .. 131
Bluetooth について 258

C

Caps Lock LED 32, 34
Caps Lock 英数キー 32
CD/DVD 再生アイコン 22
CD の取り扱い 66
CRT ディスプレイを接続する 176
Ctrl キー 32, 33

D

DC IN LED 21
Del キー 33
DMA 使用リソース 232
Drag'n Drop CD 87
DVD-MovieAlbum 103
DVD-RAM Driver Software 62
DVD-Video を観る 93
DVDfunSTUDIO 103
DVD の取り扱い 66

E

Enter キー 33
Esc キー 32

F

FDD LED 160
Fn キー 32
Fn キーを使った特殊機能キー 35

H

HDD/CD-ROM LED 21

I

i.LINK インタフェース 235
i.LINK コネクタ 18
i.LINK 対応機器の取り付け 178
i.LINK 対応機器の取りはずし 178
i.LINK 対応機器を接続する 177
i.LINK によるネットワーク接続 .. 178
I/O ポートマップ 232
IEEE 1394 インタフェース 235
IEEE 1394 コネクタ 18
IEEE 1394 対応機器の取り付け
..... 178
IEEE 1394 対応機器の取りはずし
..... 178
IEEE 1394 対応機器を接続する
..... 177
Ins キー 33
InterVideo WinDVD 93
IRQ 使用リソース 232

L

LAN インタフェース 238
LAN 機能 114
LAN ケーブルの接続 114

LAN コネクタ	18
LAN コネクタに関するインジケータ	115
LAN へ接続する	114
LINE IN 端子	18
LINE IN 端子への接続	185
LINE OUT 端子	18
LINE OUT 端子への接続	184

M

MotionDV STUDIO	103
MS-DOS の起動ディスクを作成する	163

N

Numeric Mode LED	33, 34
------------------------	--------

P

Pause キー	33
PC カードスロット	18
PC カードの取り付け	167
PC カードの取りはずし	167
PC カードを接続する	166
Power LED	21
PrtSc キー	33

R

RGB インタフェース	236
RGB コネクタ	16

S

SD Card LED	67
SDMI	67
SD メモリカード	67
SD メモリカードスロット	16, 67
SD メモリカードのセット	68

SD メモリカードの取り扱い	70
SD メモリカードの取り出し	68
Shift キー	32, 33
Space キー	32

T

Tab キー	32
Tab ボタン (リモコン)	75
TFT 方式カラー液晶ディスプレイ	47
TV アプリケーションボタン (リモコン)	74
TV 出力切替ボタン	17

U

USB インタフェース	237
USB コネクタ	16, 18
USB 対応機器の取り付け	169
USB 対応機器の取りはずし	170
USB 対応機器を接続する	169

W

WEP 機能を設定する	122
Windows Media Player	78, 84
Windows のネットワーク設定	115
Win キー	32

ア

アプリケーションキー	33
アプリケーション起動アイコン	22
アプリケーションを削除する	215
アプリケーションを追加する	214
アプリケーションを使う前に	212
アロー状態	34
アンインストール	215
アンインストール	215

イ

イジェクトボタン（フロッピーディスクドライブ）.....	160
インスタントセキュリティ機能.....	35
インストール.....	214
インターネットボタン.....	17
インタフェース.....	154
インフラストラクチャネットワーク.....	118

ウ

ウィンドウの色を変える.....	51
------------------	----

エ

映像を編集する.....	103
液晶ディスプレイの取り扱い.....	52

オ

オーディオ／アプリケーションボタン.....	17, 22, 24, 80, 83, 94
オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能.....	25
オーディオ／アプリケーションボタン ロック機能アイコン.....	22
オーディオ機器.....	184
オーディオデジタル再生アイコン..	22
オートスクロール.....	46
オーバレイキー.....	33
大文字ロック状態.....	34
オリジナルMDを作る.....	92
オリジナル 音楽CDを作る.....	87
音楽CDを聴く.....	78
音楽ファイルを聴く.....	83
音量ボタン（リモコン）.....	74

カ

海外でインターネットに接続する	149
外形寸法図.....	229
回線切換器.....	149
解像度を変更する.....	50
書き込み可能状態（SDメモ리카ード）.....	69
書き込み可能状態（フロッピーディスク）.....	162
書き込み禁止状態（SDメモ리카ード）.....	69
書き込み禁止状態（フロッピーディスク）.....	162
各部の名前.....	16
カタカナ／ひらがなキー.....	33
カテゴリ.....	114
壁紙を変える.....	49

キ

キーシフトインジケータ.....	34
キーフロッピーディスクの作成... ..	221
キーボード.....	16
キーボード図.....	32
キーボードの取り扱い.....	38
逆送りボタン（リモコン）.....	75
休止状態.....	204, 208

ク

クイックフォーマット.....	163
クリック.....	40

ケ

決定ボタン（リモコン）.....	74
------------------	----

サ

再生／一時停止ボタン（リモコン）... ..	75
------------------------	----

最大化ボタン (リモコン)	75
サウンド機能	54
先送りボタン (リモコン)	75

シ

システムインジケータ	17, 21
システム環境の変更	218
周辺機器について	154
出力切替ボタン (リモコン)	74
使用できる CD	57
使用できる DVD	59
使用できるフロッピーディスク ..	161
使用できるメディアと対応する アプリケーション	61
省電力モード	201
省電力モードの削除	201
省電力モードの作成	201
ジョグホイール	16
シンクロ録音機能	181
新着メールチェック機能	140

ス

数字ロック状態	34
スクリーンセーバを使う	49
スタンバイ	204, 206
スピーカ	16

セ

静電気について	187
製品仕様	226
赤外線ポート	16
セキュリティロック	76
セキュリティロック・スロット	18

ソ

増設メモリスロット	19
-----------------	----

増設メモリの取り付け	189
増設メモリの取りはずし	188

タ

タスク切替ボタン (リモコン)	75
タスクバーに CPU 周波数の状態を 表示する	202
タスクバーに省電力モードの状態を 表示する	202
タッチパッド	16, 39
タッピング	40
ダブルクリック	40

ツ

通風孔	18
-----------	----

テ

停止ボタン (リモコン)	75
ディザリング表示	47
ディスプレイ	16, 47
ディスプレイ開閉ラッチ	16
デジカメ Walker	100
デジタルカメラの写真を編集 / 整理する	100
デスクトップのテーマを変える	48
テレビに表示する	171
テレビを接続する	171
電源コードの仕様	20
電源コードの取り扱い	20
電源コネクタ	18
電源スイッチ	16
電源ボタン (リモコン)	74
電池の取り付け (リモコン)	73
電池の取りはずし (リモコン)	73

ト

東芝HWセットアップ	219
東芝コントロール	26
東芝省電力ユーティリティ	200
特殊機能キー	38
時計用バッテリー	195
ドライバをインストールする	155
ドライブ	16, 57
ドラッグアンドドロップ	40

ナ

内蔵マイク	16
内蔵モデムについて	149
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	149

ネ

ネットワークデバイススイッチ ...	126
--------------------	-----

ハ

ハードウェアリソースについて ...	232
ハードディスクドライブ	53
パスワードの削除	221
パスワードの登録	220
パスワードを忘れてしまった場合	222
パソコン本体の取り扱い	20
バックライト用蛍光管	52
バッテリー駆動での使用時間	196
バッテリー残量アイコン	22, 193
バッテリー充電量を確認する	193
バッテリーの充電完了までの時間 ...	196
バッテリーの充電方法	195
バッテリーの充電保持時間	196
バッテリーパック	19, 192
バッテリーパックの交換方法	198

バッテリー・リリースラッチ	19
バッテリーを節約する	197
バッテリーを長持ちさせるには	197
パネルスイッチ機能	210
早送りボタン (リモコン)	75
早戻しボタン (リモコン)	75
半/全キー	32

ヒ

ピア・ツー・ピアワークグループ ...	118
光デジタルオーディオ出力端子	18
光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を接続する	179
光デジタル対応機器の取り付け ...	180
光デジタル対応機器の取りはずし	180
光デジタル対応機器への録音	180
ピクセル	47
左ボタン	16
ビデオケーブルの取り付け	171
ビデオケーブルの取りはずし	175
ビデオ出力端子	18
ビデオモード	230
表示可能色数	47

フ

ファイルシステム	63
ファンクションキー	32
フォーマット (DVD-RAM)	63
フォーマット (SDメモ리카ード) ...	70
フォーマット (フロッピーディスク)	162
プラグアンドプレイ	155
フロッピーディスクドライブ	160
フロッピーディスクドライブの手入れ	165

フロッピーディスクの取り扱い ...	165
分岐アダプタ	149

へ

ヘッドホン	183
ヘッドホン出力端子	18, 183
ヘッドホンの接続	184
変換キー	33
編集した映像を書き込む	106

ホ

ホットインサージョン	166
ボリュームダイヤル	16, 54
本製品の仕様	226

マ

マイク入力端子	18, 182
マイクロホン	182
マイクロホンの接続	183
マウスのプロパティ	39
マスタ音量	54
マルチスタイルベイ	18
マルチスタイルベイ LED	21
マルチスタイルベイ機器のロック	158
マルチスタイルベイ機器を差し替える	156
マルチスタイルベイ・リリースラッチ	19
マルチスタイルベイロック	19
マルチスタイルベイロック解除	19

ミ

右ボタン	16
ミュートボタン (リモコン)	74

ム

無線 LAN	116
無線 LAN について	251
無線 LAN の種類	117
無線 LAN を使う	124
無変換キー	32

メ

メール着信情報を消す	147
メールボタン	17
メニューボタン (リモコン)	75
メモリマップ	232
メモリ容量の確認	190
メモリを増設する	186

モ

モード切替ボタン	17
モード切替ボタン (リモコン)	75
モードパネル	17, 22
モードパネルに表示されるアイコン	22
モードパネルの設定	144
モードパネルの表示	23
モジュージャック	18
モデムインタフェース	237

ヤ

矢印キー	33
矢印ボタン (リモコン)	74

ラ

ライトプロテクトタブ (SD メモリカード)	69
ライトプロテクトタブ (フロッピーディスク)	162

リ

リモコン	71
リモコンの取り扱い	75
リリース情報	9

ロ

録音レベルの調整	55
----------------	----

ワ

ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	16
ワンタッチボタン	22, 24